

Title	安南訳語の研究(四)
Sub Title	A bibliographical and linguistic study on the "An-nan-yi-yu" (安南訳語)(IV)
Author	陳, 荊和(Chen, Ching-Ho)
Publisher	三田史学会
Publication year	1968
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.41, No.1 (1968. 6) ,p.1- 63
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19680600-0001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19680600-0001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 安南訳語の研究 (四)

陳 荊 和

## F 宮 室 門 (Nos. 306-330)

306 楼 魯 (lu): (倫本) 欠文

lâu (SV)

「魯」は本例及び No. 321 について lâu (楼の SV) を表はす。尚「楼」の俗音は lâu である。

307 房 放 (fag)

phòng (SV)

「放」は本例及び Nos. 320, 323-326, 329, 330 について同じく phòng (房の SV) の音註となる。近代越語では buồng をも合せ用いる。

308 庁 聽 (t'ieg): (倫本) 欠文  
(玄本) 听

thính (SV)

「聽」(听は略字)は thính (庁の SV) を表はす。Gaspardone 氏は đình (亭の SV) と解するが đình は普通村落の廟乃至は共同集会所を指す。

309 屋 雅 (ia)

nhà

「雅」(AC nga) は本例及び Nos. 322, 411 について nhà (屋、家) を表はす。No. 317 について nhà (寢) No. 503 について ngà (牙の SV) の音註となる。玄本は本例を欠く。

310 門 悶; (倫本) 欠文 (EM kau)  
(玄本) 各 (MM ko)

cửa

諸本の「悶」は môn (門の SV) を表わすが、玄本の「各」(AC kâk) は本例及び No. 311 にて cửa (門、出入口)、No. 379 にて cùr (織機) No. 618 にて khát (渴) の音註となる。

311 窓 各朔 (EM kau sau)  
(MM ko suo)

cửa sổ

「各」は上例同様 cửa (門戸) の音註であるが、「朔」(AC sak) は só (框) を表わし、両語合して「窓」の義となす。

312 壁 必 (pi)

bích (SV)

「必」は bích (壁の SV) を表わす。俗称は vách 又は vách tường となす。

313 梁 省

suôn

314 寺 多

tự (SV)

315 廟 眇; (玄本) 妙

miêu (SV)

「眇」と「妙」は同音、本例では便宜上前者を探る。

316 板 半; (玄本) 班

ván

「半」(pan; 班は同音) は ván (木板) 又は bán (板の SV) を表わすとも考えられるが、日常の会話では ván を使用するから本例はこれに従う。普通 tám (陪數詞) ván 又は miếng (片) gô と称する。

317 堂 雅

nhà

318 衙門 押悶 (ia man); (玄本) 鴨悶

nhà (SV) môn (SV)

「押」(鴨は同音) は nha (衙の SV) 「悶」は本例で môn (門の SV) No. 465 に muốn (要する) を表わす。

Maspero は曾て本例を *da môn* と解したが (Maspero, loc. cit, p. 70) 「衙」の SV は *da* の音はな。

319 客庭：(近本)客殿 般春：(倫本)般春 (玄本)春客 (t's'uan k'ai) *sánh khách* (SV)

諸本の「客庭」と云ひ、近本の「客殿」と云ひ、要するに「客厅」(客間)のことである。筆者は曾て正しい音註は「般客」と推定して、*buông khách* と解したが、玄本の音註「春客」を得て、明確な解釈が可能になった。即ち、「春」は *sánh* (斤の俗称)、「客」は *khách* (客の SV) を表わし、両者合して「客厅」の義となる。「客」は別に No. 393 として *khác* (他の、別の、異なる) の音註となる。Gaspardone 氏は本例を *xương bản* と解したが、語義不明である。

320 厨房 主放 (t'siu fag) *trú* (SV) *phòng* (SV)

「主」は *trú* (厨の SV) を表わす。普通は *buông phòng bếp* と称する。

321 半楼 七魯：(玄本)兀魯 *nửa.lâu* (SV)

諸本の「七」(nie) は玄本の「兀」(u) よりも *nửa* (半) に対する音註として妥当であろう。

322 屋簷 雅然：(内本)雅然 (玄本)悪然 (o zien) *ôc* (SV) *diêm* (SV)

諸本の「雅」(内本の「離」は誤伝)は *nhà* (家屋) の音註にはちがいないけれども、簷(ひやし)にあたる越語は、*hiên* であり、「然」を *hiên* の音註と見ることは無理である。本例は玄本の「悪然」を音註に採用して、「悪」(AC ak) は *ôc* (屋の SV)、「然」は *diêm* (簷の SV) を表わすものと解すべきである。

323 草房 葛放 (ko fag)：(玄本)各放 *phòng* (SV) *cỏ*

324 瓦房 売放 *phòng* (SV) *mái*

325 倉房 嫩放：(倫本)柳鋪 (玄本)聰放 (t'siung fag) *phòng* (SV) *thương* (SV)

筆者は曾って本例の音註を「嗽放」と推定して、*sân* (棧の SV) *phông* と解し、Gaspardone 氏は *phông lương* (糧の SV) と解したが、何れも臆測である。本例は玄本に従って「聰」(聰)は *thương* (倉の SV) と解した方が妥当である。近代越語では普通 *thương khô* (倉庫の SV)、又は *nhà khô* と称する。倫本の「柳舖」は No. 327 の「窩舖」に対する音註であるのが本例に紛込んだのである。

326 馬房 厄放；(玄本) 兀放 (*u fag*)

*phông ngựa*

音註は「放兀」が正しい。

327 窩舖 柳舖 (*liou p'u*)；(倫本) 嗽放  
(玄本) 窩府

*phô* (SV) *lêu*

「窩舖」は即ち「窩棚」(小屋)のことである。本例の音註としては諸本の「柳舖」をとる。「柳」は *lêu* (廬)を表わす。*lêu* は *lu* (廬の SV) より出たとは云え、「窩棚」の義を存する。又「舖」は *phô* (舖の SV) を表わす。玄本の「窩府」(*ua fu*) は *oa phó* (窩舖の SV) を表わしたのに外ならない。倫本の「嗽放」は本来 No. 325 の倉房に対する音註であるのが、本例に紛込んだのである。

328 上梁 連省；(玄本) 登整

*\*tlên* (*lên*) *suôn*

「連」は Nos. 20, 70 については *\*tlên* (◇*trên*；上) を表わすが、本例及び No. 661 については *\*tlên* (◇*lên*；動詞「上げる」) を表わしている。玄本の「登整」(*teg t'ieq*) も同音を表わすと思われるが、「登」の使用は当時 *\*t-* 複輔音の存在を証するものである。

329 蓋房 勒放；(玄本) 大舖

*lôp phông* (SV)

「蓋房」は家屋の屋根をかぶせる義である。筆者は曾って「勒」(*AC lak*) を *lâm* (作る、造る、なす) の音註と見て *lâm phông* と解したが、「勒」を *lâm* と読むのは無理であり、又これでは家を建てる義になり、「蓋房」に合はない。

本例は Gaspardone 氏の如く *lợp nhà* (*couvrir une maison*) と解するのが正しい。玄本の「大」は *đạt* (据える、おく) を表わしたもののか？

330 拆房 別放； (玄本) 別舖

*bé phòng* (SV)

玄本は No. 329 と本例で音註に「舖」を用いて、*phò* (舖の SV) を表わすが、*phò* は普通の商店、店舖を指す。

### G 器用門 (Nos. 331-384)

331 鐘 中

*chung* (SV)

「鐘」の俗名は *chuông* である。

332 鼓； (倫本) 鼓 共 (*kuy*)

\**klông* (*trông*)

近代越語で「鼓」は *trông* と称する。音註「共」の使用は当時この語の中古音が尚 \**klông* であったことを証する。

333 笛 得； (玄本) 徳

*đich* (SV)

「得」と「徳」は同音。本例は「得」に従ふ。

334 紙 錘 (*t'suei*)

*giây*

「錘」は *giây* (紙) を表わす。寛政訳語は「マク」と訳す、誤伝であろう。

335 墨 未； (内本、河本、静本、倫本) 末

*mặc* (SV)

No. 9 と同じく、本例も「莫」を音註に採用する。尚「墨」の SV は *mực* である。天明訳語では「モック」、寛政訳語は「モト」をあてる。

336 筆 剝； (玄本) ト (*pu*)

*bút* (SV)

「筆」に相当する越語は古来 *bút* であるので、音註としては「剃」(AC pak) よりも玄本の「ト」(AC puk) の方が *bút* (筆の SV) に近い。寛政訳語は「バイ」、天明訳語は「ビイル」と訳する。

337 硯 烟 (*ien*) nghien (SV)

「烟」(AC *ien*) は *nghien* (硯の SV) を表わす。寛政訳語で「マイ」をあてるのは *mài* (墨を磨る) を表わしたのであろう。又天明訳語では「メルモクシコン」とあてるが、これは恐らく「メイモクニエン」の誤りで、原語は *mài*, *mực*, *nghien* の三語であらう。

338 棹 爪: (玄本) 板鐸 (*pan to*) bàn độc (SV)

諸本の「爪」(*tjiau*) は *trác* (卓の SV) を表わすのであるが、実際の用例を考慮すると、玄本の「板鐸」を採用して「板」は *bàn* (机)、「鐸」(AC *dák*) は *độc* (牘の SV) を表わすと見た方が妥当である。*bàn độc* で「牘几」、つまり位牌や装飾品を置く脊の高いテーブルの義となる。Gaspardone 氏は *tráo* と解する。これは多分 *trác* のミスプリントであらう。

339 椅 𠂔 (*ki*) ghê

「𠂔」は本例で *ghê* (椅子、腰掛) を表わし、別に No. 374 で *cờ* (旗) の音註となる。尚「椅」の SV は *y* である。

340 床 整 giường

341 碗 半 bát (SV)

「半」は *bát* を表わす。*bát* は原来「鉢」の SV であるが、転じて一般の「碗」を指す。Gaspardone 氏は *bàn* 又は *ván* と解するが、根据不明である。又天明訳語は「アムカクシ」、寛政訳語は「マワン」をあてる。原語未詳。

342 碟 得

đĩa

「碟」は「皿」のこと、天明訳語は「皿」に「バギヤ」をあてる。恐らくは *bat đĩa* (碗と皿) 両語の音訳であろう。

343 盆 門

mâm

344 筋 鐸

đũa

「筋」は「箸」のこと、天明訳語は「箸」を「ロウ」と訳す。

345 鍋 内

nôi

寛政訳語は「ウイ」とあてる。多分「ヌイ」の誤りであろう。

346 壺 宝 (pau); (玄本) 稟

vô

「宝」は本例にて vô (壺) を表わし、別に No. 365 にて *bầu* (瓢、ひょう) の音註となる。Dict. は *uo* とする。

玄本の「稟」(piang) は bình (瓶の SV) を表わすが、No. 348 には「瓶」の訳語が別個にあるから、本例でこれを探るわけには行かない。

347 劔 于; (倫本、近本、玄本) 干

gươm

348 瓶 并; (玄本) 餅

bình (SV)

「并」と「餅」は同音。

349 刀 勺 (tiau)

đao (SV)

「勺」は本例で *đao* (刀の SV) No. 526 にて *điều* (跳の SV) を表わす。「刀」の俗称は *đao* である。

350 盃 灰 (xuei); (玄本) 輝

khôi (SV)

「灰」(輝は同音) は本例で *khôi* (盃の SV) を表わし、又 Nos. 510, 548 にて *hôi* (汗) No. 564-566 にて



huê (靴の SV) の音註となる。

351 甲 甲 (kia); (玄本) 夾

giáp (SV)

352 弓 弓 (kug); (玄本) 公

cung (SV)

「弓」(公は同音)は cung (弓の SV) を表わす。寛政訳語では「ヤダロン」。「ロン」とあつてゐる。「コン」は勿論 cung にちがいないが、「ヤダ」の原語は不明。

353 箭 得

tên

「箭」の SV は tiên とあつてゐる。

354 牌 牌 (p'ai); (玄本) 排

bai (SV)

「牌」(排は同音)は本例及び No. 633 及び bai (牌の SV) No. 469 及び \*p'rai (say; 酔ふ) を表わす。

355 鏡 鏡; (近本) 羹 (玄本) 更 (kag)

guong

「羹」と「更」は同音。

356 剪 告 (kau)

kéo

「剪」は即ち「剪刀」(鋏)のことである。「告」は kéo (はぢみ) を表わす。

357 傘 旦 (tan)

tân (SV)

「旦」は本例で tân (傘の SV) を表わす外、No. 509 及び dâm (胆の SV) の音註となる。近代越語では、又は dù と称する。寛政訳語は「ハソソソキヤウ」この内「ソソ」は nón (笠、本書 No. 370) のことらしいが、其他の「ハソ」と「キヤウ」の原語は不明。

358 扇 刮 (kua)

quát

「刮」(AC k<sup>at</sup>) は quát (扇、うちわ) を表わす。天明訳語は「クワ」、寛政訳語は「グワ」と訳す。

359 鎖 疇 (夸) (k'ua); (玄本) 約疇 khóa

「疇」(夸) は khóa (鎖、即ち錠) を表わす、玄本の「約」(AC iak) は xích (くわら) を表わすらしい。

360 鑰 参 (EM sam); (MM san); (玄本) 約 xiéng

「鑰」は錠 (かぎ) のことである。但し「参」が表わす音は xiéng をおいては考えられない。xiéng は罪人にかける鎖であり、xiéng khóa, xiéng tóa (鎖の SV) とも称する。玄本の「約」は上例同様 xích の音註であろう。近代越語で普通「かぎ」は chia khóa と称する。Gaspardone 氏は本例を chia と解する。

361 鈎 鈎 (kau) câu (SV)

「鈎」は本例で câu (鈎の SV) を表わし、別に Nos. 405, 406 とし câu (鬲の SV) の音註となる。

362 針 金 (kiam) kim

「金」は kim (針) を表わす。

363 梳 勒 lược

寛政訳語では「櫛」(梳) に「ロウ」をあてる。

364 蓆 醴 (tsiau); (玄本) 焦 chiéu

「醴」(焦は同音) は chiéu (蓆、しとね、むしろ) を表わす。

365 瓢 宝 (pau) bầu

Gaspardone 氏は báo (bầu) と解する。

366 甌 内 niêu

越語で *nôi* は金属製の鍋類、*niêu* は土製の鍋を指す。本例の「甑」は「土鍋」の事であるから、音註の「内」は *niêu* を表わすと解すべきである。

367 秤 根； (近本、河本、内本、静本) 根 (*ken*)  
*cân* (SV)

本例で *cân* (斤の SV；秤のこと) に対する音註としては玄本の「巾」(*kin*) よりも、諸本の「根」(*ken*) が近い。「根」は

368 斧 布 (*pu*)； (玄本) 有 *búa*

音註は「布」が正しい。玄本の「有」は「布」の誤写である。字喃は「鉢」に作り、「布」を声符となしている。

369 簑 堆 (*tuei*)； (玄本) 達 *toi*

普通「簑」(みの) のことは *áo toi* (簑衣) と称する。玄本の達 (*ta*) は *toa* (簑の SV) を表わすものであろう。

370 笠 難 (EM nam)； (玄本) 臘 (MM nam) *nón*

玄本の「臘」(*AC lâp*) は *lâp* (笠の SV) を表わす。

371 網； (倫本) 網 (近本) 累 (*luei*)； (近本) 黒 (玄本) 王 *lur'oi*

本例の語義は「網」(あみ)、音註は「累」が正しい。「累」は本例及び No. 562 として *lur'oi* (網) をあらわす。玄本の「王」(*uaf*) は *vông* (網の SV) を表わす。

372 繩 歹 (*tai*)； (玄本) 省 *dây*

「歹」は本例で *dây* (繩) Nos. 493, 516, 534, 535, 560 として *tay* (手) を表わす。玄本の「省」(*siaf*) は *thàng* (繩の SV) を表わしたものであろう。

373 鞞 初； (近本、倫本) 初 (静本、玄本) *thu* (SV)

「鞞」は「鞞韃」(ぶらんこ)のことである。「初」は *thu* (鞞の SV) を表わす。俗名は *du* である。Gaspardone 氏は *buộc* と解する。これでは「縛る」義である。

374 旗 己

*cờ*

375 鈴 喇; (玄本) 月 (*lư*)

*linh* (SV)

「月」は *linh* (鈴の SV) を表わす。俗名は *lanh* である。Gaspardone 氏は *lạc* と解する。

376 弩 弩 (*na*)

*ná*

「弩」は *na* (弩) を表わす。弩の SV は *nỏ* である。

377 盃 站; (玄本) 卑 (*pei*)

*bôi* (SV)

「卑」は *bôi* (盃の SV) を表わす。本訳語では「盃」(No. 377) と「盞」(Nos. 636, 637) を区別している。依って、本例では「卑」、Nos. 636, 637 では「站」を音註とした方が妥当である。

378 燈籠 鼓; (倫本) 鼓  
(玄本) 点弄 (EM *tiem lư*)  
(MM *tiem lư*)

*dèn lóng* (SV)

本例は諸本の音註「鼓」(*ku*) を採用して (*dèn*) *củ* (走馬燈の義) とも解しているか、それでは意味が偏る傾向があるので、玄本の「点弄」に従って *dèn lóng* と解した方が妥当であろう。「点」は *dèn* (燈)、「弄」は *lóng* (籠の SV) を表わす。「燈籠」のことはその越語をよって *dàng lóng* (*lung*) とも称する。Gaspardone 氏は *cỏ* と解し、疑問符の ? を附している。

379 織機 空該; (玄本) 各取 (*kau tsi*)

*cũi dệt*

筆者、Gaspardone 氏共に曾って「空」は *không* (框の SV)、「該」は *cũi* (織機) を表わすと解したが、それよりも玄本の「各」(*ko*) は *cũi* を表わし、「取」(職) (*AC tsiak*) は *dệt* (織を) 表わすと見て、*cũi dệt* と解した方

が妥当であろう。

380 馬鞍 厄安：(玄本) 麻安

an (SV) ngựa

玄本の「麻安」は *mã an* (馬鞍の SV) を表わすが、かゝる表現は実際会話には少ないので採らない。俗語は普通 *yên ngựa* と称する。

381 銅鑼 董羅 (EM tung la) ; (玄本) 同羅

đồng (SV) la (SV)

「董」は本例及び Nos. 428, 622, 641, 648 にて *đồng* (銅の SV) を表わす。玄本は本例にて「同」(*tung*) をあてるも、他の諸例では一律に「董」を用いる。「羅」は本例で *la* (鑼の SV) No. 382 にて *loa* (囉の SV) を表わす。

382 唃囉：(近本、静本) 唃囉 甫羅 (*p'u lo*) ; (玄本) 甫六 *bôt* (SV) *loa* (SV)

語義の部份は「唃囉」が正しく、威繼光新書に、「凡吹唃囉是要衆兵起身、執器站立」とある如く、軍中吹奏樂器の一種である。音註は諸本に従つて、「甫」は *bôt*、「羅」は *loa* を表わすと解すべきである。玄本の「甫六」は「甫羅」の音値と近似である。

383 喇叭 喇：(玄本) 次八

lạt (SV)

「喇」は *lạt* (喇の SV) を表わす。*lạt* は *clairon militaire, trompette* の義である (G. Hué, p. 480)。玄本の「八」(*pa*) は *bát* (叭の SV) を表わすと思われるが、「次」(*t'su*) の対音がわからぬ。

384 鎖呐：(玄本) 鎖納 敢：(玄本) 奪那 (*tuo na*) *tóa* (SV) *nột* (SV)

「鎖呐」は又「唆呐」、「鎖拿」、「哨呐」にも作る。在閣知新録にも「近樂器中有鎖呐、正徳時詞曲作唆呐、蓋後起之名、故字体随人書也」と見えている。諸本の「敢」(*kan*) は *trompette* の総称たる *kên* を表わすが、「鎖呐」はその中の一種であるので、玄本に従い、「奪」は *tóa* (鎖の SV)、「那」は *nột* (呐の SV) を表わすと解した方が妥当である。

「那」は別に No. 442 にし *nó* (他、彼)、Nos. 486, 487 にし *néo* (引留める、拘留する)、No. 616 にし *no* (飽へ) の音註となっている。

## H 人物門 (Nos. 385-442)

385 皇帝 波 (*puo*)

*vua*

厳密に云つて、*vua* は「君王」、「国王」の義であるから、本例は *hoàng đế* (皇帝の SV) に該当する音註が与えられなくてはならぬ。尤も「皇帝」と云えども、日常一般に *vua* と稱している。字喃では「帝」又は「帝」と書き、「布」を声符に採用している。

386 総兵 從賓 (*EM ts'ing pian*)  
(*MM ts'unj pin*)

*tông* (SV) *binh* (SV)

「從」は *tông* (總の SV)、「賓」は *binh* (兵の SV) を表わす。

387 大人 夏委；(玄本) 翁憂 (*EM ung kuo*)  
(*MM uang kia*)

*ông* (SV) *cá*

「憂」は本例では「長老」、「頭領」の義たる *cá* を表わす。諸本の「委」は本例及び Nos. 393, 408, 411, 414-423, 425 にし *ngươi* (人) の音註となつて居り、*ngươi cá* で以て、「頭人」、「領袖」、「統率者」の如き意味はある。併し漢語の「大人」は社会的地位の高い人物又は官職にある者に対する敬称であるから、*ngươi cá* では意味が不充分である。筆者は曾つて、「憂」が「該」の越読を表わすと推定して、*ngươi cai* とよみ、近世越南の官職である「該奇」(*cai co*) の略称と解したが、これも厳密に云つて「大人」の觀念に合致しない。Gaspardone 氏は *ngôi cá* と解したが、これは恐らく *ngươi cá* のミスプリントであろう。幸にして、玄本は音註に「翁」を使用して、これで以て第二人称及び第三人称男性敬称の *ông* (翁の SV) を表わして居り、かくて本例を *ông cá* と解することが出来る。

388 頭目 斗目 (tou mu); (玄本) 斗木

đầu (SV) mục (SV)

「斗」は本例及び Nos. 489, 511, 520, 521, 561 にし đầu (頭(SV)) を表わし、「目」(木は同音) (AC miuk) は mục (目(SV)) を表わす。

389 通事 統事 (t'ung sĩ); (玄本) 翁通

thông (SV) sự (SV)

「統」は thông (通(SV))、「事」は sự (事(SV)) を表わす。玄本の「翁通」は ông thông の音註で通事に対する敬称であり、云わば Mr. interpreter の意味である。

390 父母 查七 (t'ya mie); (玄本) 渣七

cha mẹ

「查」(渣は同音) は本例にて cha (父親) を表わす。寛政訳訳では「サアママ」をあてるが、恐らく「ツアママ」の誤りであらう。古代越語で「父母」を指す語として bô cái なる形が知られている。欽定越史通鑑綱目(卷三)に八世紀末唐朝に反抗した馮興 (Phùng Hưng) の称号として「布蓋大王」の名が見え、その下に註して、「古俗号父曰布、母曰蓋」と述べている。「布蓋」は即ち bô cái であり、八世紀頃にこの名称が通用していたと思われる。十三世紀になると、交稿に「吒娜」(cha nà) と見えているので、cha nà が当時父母を指す通称であったことがわかる。近代越語では cha mẹ とも bô mẹ とも称するが、「母」を指す語としての cái や nà は行われず、歌謡にその名残を留めるのみである。尚一般の習慣として、カトリックの神父に対しては cha を用い、bô は自分の父親を指す場合のみ用いる。

391 兄弟 英奄 (iəj iem); (玄本) 真奄

anh em

「英」は本例及び Nos. 433-437 にし anh (兄) を表わす。「奄」は em (弟、妹) を表わす。寛政訳語は「兄」を「ンアイ」と訳すが、これは複数形の chúng anh を訳したものであろう。玄本の「真」は「英」の誤写である。

392 妻子 介字; (玄本) 介干 (kiai kan)

cái con

筆者は曾つて「介字」に基き、本例を *thê tú* (妻子の SV) と解したが、「介」を *thê* の音註と見るのは無理である。Gaspardone 氏は *cái trê* と解するが、*trê* は「若い」と云う形容詞で、これも妥当ではない。按ずるに、*cái* には 1) 母親、2) 妻妾、3) 婦女一般、4) 無生物の陪数詞と云う風に四つの異なる意味があるので、本例は玄本の「介干」を音註に採用して、*cái con*, つまり「妻子」の意味に解することが出来る。(若し、倒置して *con cái* とすると「子女」の義となる)。但し、近代越語では *cái con* は最早行われず、一般に *vợ con* と称する。交稿は「妻」に「陀被」をあてるが、これは *thê* (妻の SV) と *vợ* (妻の俗称) の双方を表わしたのである。尚、「介」は No. 410 にても「妻妾」の義の *cái* を表わし、No. 409 にて「母」の義の *cái*、No. 412 にて「娘」の義の *gái* を表わしている。

393 他人 那委: (玄本) 委客 (*uei k'ai*) *người khác*

筆者は曾つて諸本の「那」(*na*) を *nó* の音註と見、本例を *người nó* と解したが、*nó* は第三人称代名詞の卑称であつて、「他人」の意味とは多少出入がある。これに反して玄本の「客」(*AC k'ak*) は確実に *khác* (他の、異なる) を表わすから、これに従つて *người khác* と解すべきである。Gaspardone 氏は *người na* と解する。意味不明である。

394 伯父 八查: (玄本) 百符 (*pai fu*) *bá* (SV) *phụ* (SV)

395 伯母 八セ: (玄本) 八母 (*pa nu*) *bá* (SV) *mẫu* (SV)

諸本の「八查」、「八セ」は何れも機械的な音註のあて方であつて、「八(百)符」で *bá phụ* (伯父の SV)、「八母」で *bá mẫu* (伯母の SV) を表わすと解すべきである。近代越語では *bác* 一語で「伯父」、「伯母」双方を指し、若し双方を区別する要ある場合 *bác trai* (伯父)・*bác gái* (伯母) と云ふ。「符」は更に No. 403 にて同く *phụ* (父の SV)・No. 601 にて *phụ* (廢の SV) を表わし、「母」は別に Nos. 397, 404 にて *mẫu* (母の SV) を表わす。



396 叔父 祝査; (玄本) 祝 (tʃiu)

chú

「祝」は chú (叔父) を表わす。事実上越語では chú 一語で「叔父」を表わす。諸本の如く「査」(cha) を附するのは全然機械的な音註のあて方である。

397 嬖母 信也; (玄本) 整母 (tʃiəŋ mu)

thím (SV) mẫu (SV)

「整」は thím (嬖の SV) を表わす。諸本の「信」は \*sim (◇thím) を表明するのである。近代越語では thím 一語で「嬖母」(叔母) を指す。

398 夫婦 冢蓋 (tʃiung kai); (玄本) 富付

chông cái

「冢」は本例にて chông (夫) を表わし、別に No. 407 にて chàng (青少年) の音註となる。「蓋」は cái (妻) を表わす。玄本の「富付」(pu fu) は phu phụ (夫婦の SV) を表わす。近代越語では vợ chồng と称する。

399 姪兒 照勒 (tʃiau lei); (玄本) 得女記

cháu \*lại (trai)

「照」は本例及び No. 400 にて cháu (姪) を表わす。玄本の「得」(AC tek) は diệc (姪の SV)。「女」(niu) は nhi (児の SV) を表わし、「記」は衍字であろう。

400 姪女 照愛 (tʃiau ai); (玄本) 得女

cháu gái

玄本の「得女」は diệc nữ (姪女の SV) を表わすのであろう。

401 外公 歪翁 (uai uŋ); (玄本) 歪官

ông (SV) ngoại (SV),

玄本の「歪官」は「外公」(即ち外祖父)の SV たる ngoại công を表わすが、これは中国民間の称呼であって、越南民間では今でも ông ngoại (外翁の SV) と称する。

402 外婆 歪把

bà (SV) ngoại (SV)

「外婆」は即ち「外祖母」のことである。「歪把」は *bà ngoại* (外婆の SV) を表わす。

403 外父 歪查：(玄本) 歪符 *ngoại (SV) phụ (SV)*

404 外母 歪セ：(玄本) 歪母 *ngoại (SV) mẫu (SV)*

「外父」、「外母」は即ち「岳父」、「岳母」のことであり、近代越語では *ông nhặc* (翁岳)、『*bà nhặc* (婆岳)』、又は *bò vợ* (妻父)、『*mê vợ* (妻母)』と称する。筆者及び Gaspardone 氏は曾って諸本の音註に従い、本例を *cha ngoại*、『*mê ngoại*』と解したが、どうもこれは作爲的な要素が強く、実際にかゝる称呼があつたとは考え難い。本例はむしろ玄本の音註を採用して *ngoại phụ* (外父の SV)、『*ngoại mẫu* (外母の SV)』と解した方が無難であろう。

405 母舅 七勾：(玄本) 勾七 *cậu mẹ*

406 小舅 別勾：(玄本) 勾別 *cậu bé*

407 男子 千字：(倫本、静本) 千字  
(玄本) 冢 (*t*ing) *chàng*

筆者は曾って倫本と静本の音註を採り、「干」を *con* (子)、『字』を *từ* (子の SV) と解したが、固より実際の語法に即した解釈ではない。本例は玄本の「冢」によつて *chàng* (青少年) と解した方が合理且つ實際的である。「男子」に對して交稿は「干多」をあてている。これは *con \*tlai* (◇*trai*) を表わしたのであろう。寛政訳語は「子供」に「カボア」をあててるが、これは *câu bé* を訳したものでらしく、又「男」に對して「コンタイ」をあてている。これは交稿同様 *con \*tlai* の音を表わしたものである。Gaspardone 氏は *chàng ré* とす。これは「婿」(むこ)の義で、本例に合わない。

408 婦人 蓋委：(玄本) 委介 *người cái*

寛政訳語では「女房」に「マツワイ」、「女」に「ヲ」をあてている。前者は *mê người* (người *mê*, 即ち母親) を

表わしたものでらしく、後者は「メ」(me)の誤伝であろう。近代越語で me は母親の意味しかないが、以前は婦女一般をも指したらしい。現在の con me なる語は女人に対する賤称である。諸本の「蓋」と玄本の「介」は相似音であるから、本例の音註は「蓋委」に従う。

409 娘子 七字:(玄本)介 (kiai)

cái

中国の俗語で「娘」は妻を指す称呼であり、又転じて母親の義となる。諸本が「娘」に対して「七」(mie)をあてていることから判断すると、本例の「娘子」は「母」の義である。筆者はかつて「七字」を me tu と解したが、本例では玄本の「介」に依つて、「母親」の義の cái と解した方が妥当である。Gaspardone 氏は di (di) me としたが、di は「姨」の SV であり、母の姉妹を指す語で、本例に該当しない。

410 小妾 別介

cái bé

411 家人 雅委:委雅

ngươi nhà

412 Y頭 噶斗:(倫本)臙斗  
(玄本)干介

con gái

「Y頭」は「女の召任」、「侍女」、「少女」の義である。諸本は a đầu (Y頭の SV) を表わさんとするらしいが、音註がしつくり合わない。むしろ玄本の「干介」を採用して con (生物の陪数詞) gái (娘) と解した方が正しかろう。交稿は「女子」に対して「干蓋」をあてる、これは云うまでもなく con gái を表わしている。

413 奴婢 堆来椎愛:(倫本、静本、近本)堆来堆愛  
(玄本)干对

tôi \*tlai (trai) tôi gái

音註は「堆来堆愛」が正しい。「堆」は tôi (奴僕、第一人称代名詞) を表わし、「来」は \*tlai (▽trai; 男子) を表わし、別に No. 445 にて lay (拝む) を表わし、「愛」は gái (娘、少女) を表わす。要するに、tôi \*tlai (trai) tôi gái で「男僕女僕」の義となる。これに対して、玄本の「干对」は con tôi、即ち「僕人」の総称を表わすものと思われ

20。

414 老人 醉委 (tʃa uei) người \*trà (già)

「醉」は \*trà (▷già; 老いたる) を表わす。

415 少人 一委; (玄本) 委小 (uei siau) người thiếu (SV)

筆者は曾つて諸本に従つて it người (人が少い) と解したが、前後の関係から云つて、本例の「少人」は「少年」の義であることがわかるので、玄本の「委小」に従つて、「小」を thiếu (少の SV) と見た方が妥当である。Gaspardone 氏は người ít と解するが、これは ít người と同じく、「人が少い」義である。

416 貧人 課委 (k'uo uei) người khó (SV)

「課」は khó (苦の SV) を表わすと見るべきであらう。Gaspardone 氏は「課」を nghèo (貧しい) と読む。勿論この方が語義の上では的確であるが、音韻の方から見れば無理である。近代越語で「貧乏人」のことは普通 người nghèo khó と称するから、「貧人—課委—người khó」なる解釈は充分成立するものである。

417 好人 朗委; (玄本) 委朗 người lành

近代越語では普通 người tử tế (仔細の SV) と称する。交稿は「好」に対して「領」(lành), 「不好」に対して「張領」(chàng lành) をあしる。

418 善人 鐸委; (玄本) 委鐸 người tốt

419 悪人 巫委; (玄本) 委巫 (uei u) người hư (SV)

「巫」は本例及び No. 532 にて hư (虚の SV) を表わす。越語には hư は「いたづらな」、「行儀の悪い」等の義があり、 hư thân mất nết (原義: 身虚にして、躰をかく) は云うことをきかぬ子供を叱る言葉である。Gaspardone

氏は「巫」を ác (悪の SV) と読み、 người ác と解したが、この語は「いじわる」の義であり、「悪人」の語義とは多少出入があり、又「巫」は入声音でなく、その AC は miu であるので、これを ác の音註と見るのは無理であろう。

420 富人 沼委 (tjiau uei)

người \*trầu (giầu)

「沼」は \*trầu (◇giầu; 富める) を表わす。玄本は本例を欠く。

421 賊人 蓋委; (玄本) 盖干

người giặc (SV)

Gaspardone 氏は諸本の「蓋委」を người cấp (cấp) と解したが、これは「どろぼう」の義である。筆者は同じ音註を người giặc (賊の SV) と解するのが無難であると思う。玄本の「蓋」(蓋)は kè (「者」の義)、「干」は gian (奸の SV) を表わしたものであろう。

422 商人 般委 (pan uei); (倫本) 般委  
(玄本) 客

người buôn

近代越語で「商人」は普通 người buôn bán 又は nhà buôn と称する。buôn は「買う」、「仕入れる」義で、bán は「売る」義である。かゝる故に、「般」は buôn の音註と解せられる。Gaspardone 氏は người bán (即ち売る人) と解する。玄本の「客」は khách (客の SV) を表わす。「客」は「北客」又は「客人」の略であつて、越南人が中国人及び華僑を指す名称である。按ずるに越南に於ける華僑の殆どが商売に従事するので、玄本は「客」(khách) を以て「商人」に対する音註としたのである。「般」は本例以外に、No. 488 にて bán (商量; 相談する) を表わす。

423 僧人 随委; (玄本) 塞委 (sai uei)

người sai

玄本の「塞」は sa と sai の二読があるが、本例では sai に従つて sai (僧侶、佳持、寺観の番人) と解する。越語で sai vai は僧尼の総称である。筆者及び Gaspardone 氏は曾て諸本の「随」(suei) を sur (師の SV) と見たが、suei-sur よりも sai-sai の方がずつと音韻的に近い。尚「塞」は No. 424 にても同音を表記する。

424 道士 道塞; (玄本) 塞道

sai dao (SV)

「道」は dao (道の SV) を表わす。

425 夷人 躋委 (tsi uei)

người di (SV)

「躋」は di (夷の SV) を表わす。近代越語で蛮夷を呼ぶ語は普通 người mọi 又は người rợ である。玄本は本例を欠く。

426 金匠 罔署 (vàng siu); (玄本) 罔将

\*sợ (thợ) vàng

「署」は本例及び Nos. 427-430 にて \*sợ (◇thợ; 匠、職人) を表わす。玄本は上記の諸例にて、「署」の代りに「将」(tsiang) をあて、これに tương (匠の SV) を表わすが、そうなれば「金」に対する音註も「金」の SV (kim) を採つて kim tương と解すべきであるのに、「罔将」(vàng tương) をあてるのは不自然な註音と云べきである。この点以下の Nos. 427-430 の諸例に就ても均しく云い得る。

427 銀匠 枝署; (玄本) 拔将

\*sợ (thợ) bạc

「銀」に対する音註として「枝」と「拔」があるが、後者の方が正しく、「拔」(pa) (ACb<sup>wat</sup>) は本例及び Nos. 621, 631, 637-640, 643, 647 にて bạc (銀) を表わす。

428 銅匠 董署; (玄本) 董将

\*sợ (thợ) đồng (SV)

429 香匠 亨署 (xang siu); 亨将

\*sợ (thợ) hương (SV)

430 帽匠 謨署 (mu siu); (玄本) 横将

\*sợ (thợ) mũ

「謨」は本例及び Nos. 540-542 にて mũ (帽子) を表わす。玄本の「横将」は mạo tương (帽匠の SV) を訳したのである。

431 長子 倭字：(玄本) 載資

\*yài (dài) tú (SV)

近代越語で「長子」は普通 *con cá*, 又は *trường tú* (長子の SV) と称する。諸本の「倭(委)」(uei) は「No. 32 一日長—靄倭」に見られる如く、\*yài (◇dài) (長) を表わすが、「長子」の場合の「長」は「年長」の義であつて、dài (委) をあてるわけには行かない。一方、玄本の「載」(tsai) の表明せんとする音も dài 以外には考えられない。又諸本の「字」及び玄本の「資」は何れも tú (子の SV) を表わすことは疑いがないので、止むを得ず、疑問を残したまま、\*dài tú と解しておく。本例は明らかに訳語編者の感ちがいの例と見ることが出来る。

432 聾子 弄字：(玄本) 容資

lung (SV) tú (SV)

「聾子」は「つんば」の義であるから、*người điếc* (又は *con điếc*) と訳すべきであるが、諸本の「弄字」は lung tú (聾子の SV) を表わしている。玄本の「容資」(*ing tsi*) はその不正確な音註である。

433 大哥 戛英：(玄本) 戛莫

anh cá

434 二哥 哈英：(玄本) 亥莫

anh hai

435 三哥 巴英：(玄本) 把莫

anh ba

436 四哥 奔英：(玄本) 半莫

anh bốn

437 十哥 邁英：(玄本) 每莫

anh mười

以上五例の数詞は均しく序数に用いられているのであるから、「英」(anh) は数詞の前に置かねばならない。玄本の「莫」は明らかに「英」の誤伝である。

438 大姐 戛即 (kuo tsi)

chí cá

「即」は本例で chí (姐、姉) を表わし、別に Nos. 544, 635 にて chí (線、じ) の音註となる。

439 大娘 夏セ

mé cá

漢語の「大娘」は「大母」とも称し、伯母を指す語である。故に「夏セ」は「大母」に対する音註であると見られる。併し本書には既に「No. 395 伯母—八母」が存するので、本例の「大娘」は恐らく「伯母」の義ではなく、妾腹の子女が本妻を呼ぶ名称であろう。

440 我母 刀セ (tau mie); (玄本) 民セ

mé tao

「我」に対する訳語としての諸本の「刀」(tau)と玄本の「民」(mian)があるが、前者は第一人称代名詞で、上輩が軽輩に対して話をする時に用いる自称たる tao を表わし、後者は「自己」(の)義の mình を表わす。本例の訳語としてはどつちでもよいのであるが、tao は下例の (No. 441) の nây に対応する称呼であるので、本例は mé tao と解しておく。

441 你母 挽セ (mei mie); (近本) 晚セ

mé nây

音註は「挽セ」が正しく、「挽」は上輩が下輩に対して使用する第二人称代名詞の nây を表わす。

442 他母 那セ; (近本) 耶セ

mé nó

音註は「那セ」が正しく、「那」は上輩が下輩に対して使用する第三人称代名詞の nó を表わす。

I 人事 門 (Nos. 443-488)

443 去 低; (玄本) 抵

đi

亨保訳語は「行くこと」を「リイ」と訳している。これは当然 đī を表わしたものである。

444 来 頼

laj (SV)



享保訳語は「来れと云うこと」を「レイ」とあてている。「レイ」は即ち lai (来の SV) である。

445 拜 来 lay

446 坐 委 ngói

447 見 体 (t'i); (玄本) 参 thây

「体」は thây (見える、見付ける) を表わす。字喃は「覺」に作り、「体」を声符としている。玄本の「参」(sam) は明らかに xem (見る、読む、察する) を表わす。どつちでもよいのであるが、本例では thây と解しておく。

448 辞 離; (玄本) 滋 (tsi) tú (SV)

本例の「辞」は前後の関係から判断して、「辞去」、「離別」の義である。諸本の「離」は li (離の SV) を表わすが、玄本の「滋」は tú (辞の SV) を表わし、こつちの方が音義共により適当と思われる。Gaspardone 氏は音註を「禽」こつこつ、câm (禽の SV) と解している。これは全然見当違いの解釈である。

449 回 毀 (xuei) hói (SV)

「毀」は hói (回 of SV) を表わす。近代越語で「回」(かえる) に対しては普通 ve を使用する。Gaspardone 氏は quay (quay) と解するが、quay は「回る」よりも「転ずる」の義であり、又「毀」を quay とはよぬなら。

450 睡 喃 (nam) nâm

「喃」は nâm (横はる、横になる) を表わす。「睡眠する」義の語は普通 ngu である。

451 笑 改 (kai) cười

「改」は本例で cười (笑う) を表わし、No. 478 にて gôi (叫、呼ぶ) の音註となる。

452 哭 渴 (k'o; AC k'ât) khóc (SV)

「渴」は *khôc* (哭の SV) を表わす。

453 問 回 (*xuei*)

*hỏi*

「回」は *hỏi* (問々、尋ねる) を表わす。

454 答 答 (*ta; AC tâp*); (玄本) 撻

*đáp* (SV)

「答」(撻が同音) は *đáp* (答の SV) を表わす。

455 聽 哀 (*ai; AC 'ai*); (玄本) 兀

*nghe*

「哀」は本例で *nghe* (聴へ、聞へ) No. 461 及び *ái* (愛の SV) No. 530 及び *ngay* (直へ、まっかんな) No. 588 及び *nhai* (嚼する) を表わす。玄本の「兀」(*AC nguat*) は入声音であり、本例の音註に適しなう。

456 有 箇

*có*

457 無 張箇

*chàng có*

458 多 鈕 (*niou*); (玄本) 遯

*nhieu*

「鈕」は *nhieu* (多) を表わす。玄本の「遯」(*ziau*) は *giàu* (富裕な、富める) を表わすと思われる。

459 少 一

*ít*

460 喜 猛 (*mung*)

*mùng*

「猛」は *mùng* (喜) を表わす。

461 愛 哀

*ái* (SV)

Gaspardone 氏は *yêu* (愛する) と解するが、「哀」を *yêu* とするのは無理である。

462 怒 罕 (*xan*); (内本) 竿

*hàn* (SV)

音註は「罕」が正しく、hân (恨の SV) を表わす。俗音は hàn で、普通 hàn giân と熟して「恨む」、「怒る」(rancunier) の義となる (G. Hué, p. 661)。

463 敬 禁

kính (SV)

玄本は本例を欠く。

464 討 涙：(玄本) 親 (ts'ien)

xin

筆者は曾つて本例の「討」を「討伐」、「驅逐」の義にとつて、đuối と解したが、これは音義共に無理である。本例の「討」は辞源に「俗称索取財物曰討」と云う如く、「索取」の義であるから、玄本の「親」に依つて xin (請求する、乞ふ) と解した方が妥当である。Gaspardone 氏は本例に xui, xui (xôi) をあてるが、論据不明である。

465 要 悶 (man)：(玄本) 侵

nuôn

漢語で「要」に意志表明の助動詞と「欲する」と云う動詞と二通りの用法がある。諸本の「悶」は前者の義の nuôn を表わし、玄本の「侵」(ts'ien) は後者の義の xin を表わしている。本例は前者に従つておく。

466 進 登 (təŋ)：(玄本) 保

tiên (SV)

漢語の「進」は「前進する」義と、「入る」義と二通りある。諸本の「登」は前者の義の tiên (進の SV) を表わし、玄本の「保」(pau) は後者の義の vào (入る) を表わす。どつちの解釈も可能であるが、次例の漢語が「退」であるので、本例では前者の解釈をとつた。

467 退 雷：(玄本) 委

lui

玄本の「委」(uei) は vè (帰る、戻る) を表わし、「退」(lui) とは意味が多少異なる。

468 送 得：(玄本) 作

đura

漢語で「送」は「進呈する」義と「送る」義との二通りあるが、本例は前者の場合で、「得」は *dua* (持参する、渡す) を表わしている。玄本の「作」は *cho* (与える) を表わし、意味が多少異なる。

469 醉 牌

\**p'rai* (*say*)

「醉」うことは近代越語は *say* と称し、*Dict.* も *say* と綴る。他にこれに相当する語はない。しかも七種の伝本共に「牌」(*p'ai*) を音註となしている。「牌」は明らかに \**p'rai* (又は *p'ai* > *say*) を表わしたものと考えねばならない。Gaspardone 氏は *bai* と解するが、これは「億」の SV であり、「醉」とは関係がない。

470 立 登; (玄本) 鄧

*đung*

「登」と「鄧」は同音。

471 杜; (内本、近本、静本、倫本、玄本) 扯 車 (*t'sie*)

*xé*

「車」は *xé* (引裂く、裂く) を表わす。

472 整 師 (*si*); (玄本) 正

*xép*

「師」は *xép* (整理する、整頓する、ととのえる) を表わす。玄本の「正」は *chinh* (整の SV) を表わす。

473 偷 幹 (*kan*)

\**klóm* (*tróm*)

越語で「偷」又は「盜」に相当する語は *cáp*, *tróm* であるが、音註の「幹」はこの両語とも合わない。筆者は字喃及び岱語諸方言を参考して、「幹」は *tróm* の古形たる \**klóm* を表わすと見、\**klóm* と *tróm* の間には *klóm* > *tlóm* > *tróm* なる関係が存したと推考する。*Dict.* には *tlóm* と見えている。Gaspardone 氏は *cáp* (*cuó'p*) と解したが、「幹」は入声音ではなく、これを *cáp* 又は *cuó'p* の音註と見るのは無理であろう。「幹」は本例以外に、No. 587 に *cán* (咬む) の音註となっている。

474 分 半

phân (SV)

「半」は *phân* (分の SV) を表わす。Gaspardone 氏は本例を *bán* と解するが、*bán* は「売る」義で、「分ける」意味はない。

475 買 末; (近本) 末  
(玄本) 班

*nua*

「買」に当る越語は *nua* 又は *buôn* である。前者は普通の場合の「買う」と云う意味であるが、後者は漢語の「販」に当り、商業目的で「買入れる」、「仕入れる」義である。本例では諸本の末 (*no*) は *nua* を、玄本の「班」(*pan*) は *buôn* を表わす。前者の解釈に従うことにする。

476 売 半; (玄本) 絆

*bán*

「半」と「絆」は同音。

477 貴 慢 (man)

*mát*

前後の関係から見て、本例の「貴」は「貴ぶ」、「愛戴」の義ではなくて、物価の昂貴を指す語である。曾って、筆者、Gaspardone 氏共に *mên* と解したが、これは前者の義に従ったのであつて適當ではない。かくみると、本例の「慢」は入声音ではないけれども、*mát* (高価な) を表わすものと解せざるを得ない。「慢」は別に、Nos. 495, 522 として *mát* (臉、面、顔)、No. 523, 524, 526 として *mát* (眼) の音註となる。

478 𠵼 高; (玄本) 改 (kai)

*gòi*

本例の「𠵼」は「さげぶ」又は「(動物が)鳴く」ことではなく、「呼ぶ」と云う意味である。諸本の「高」は Nos. 284, 299, 301 として *keu* (鳴く) を表わしているが、本例の音註としては、「高」よりも、「改」を採用して *gòi* (呼ぶ) を表わすと解した方が妥当であろう。

479 借 蝨

mượn

「蝨」は本例で mượn (借りる) を表わし、又 No. 576 として mượn (蝨、しを辛ら) の音註となる。

480 還 達 (ta; AC d'at)

\*tla (tra)

「達」は \*tla (tra) (還す、返す) を表わす。Dict. では \*bla となすが、本例の音註「達」(ta) は \*tla なる形も存したことを証する。「達」は別に、No. 497 として da (腹)、No. 498 として da (皮)、No. 606 として tè (祭の SV)、No. 629 として d'at (高貴な) の音註となっている。

481 忘; (内本) 忌 卷 (kyen)

quên

「卷」は quên (忘れる) を表わす。

482 与; (近本) 興 作 (tsau)

cho

「作」は cho (与える) を表わす。

483 貢; (玄本) 看 弄; (玄本) 皆 (kiai)

coi

「貢」に相当する越語はその SV の công 又は俗語の d'ang である。「弄」には luy, nuŋ, no の三読があるが、何れも công, d'ang とは合わない。而も本訳語には l, n-両母の漢語が c(k)-母、d(z)-母の越語の音註となる例はない。かく見ると、本例の内容は玄本の「看一皆」が正しく、「皆」(AC kai) は本例(及び Nos. 486, 655) として coi (見る、読む、見守る) を表わすと解すべきである。Gaspardone 氏は d'ang と解する。

484 生 僧

sông

485 死 則 (tsai)

chêt

「則」は本例で chêt (死ぬ)、別に No. 520 として ch'ai (梳する) を表わす。越語で「死ぬ」ことは別に m'at とも

称する。

486 看守 皆夕:(玄本) 皆那

coi néo

「皆」は Nos. 483, 655 と同じく coi (見る、見守る) を表わす。筆者は曾って諸本の「夕」を tay (手の SV) と見て、本例を tay coi (看守人) と解し、一方 Gaspardone 氏は「夕」を thây (見える、見付ける) と見て、 coi thây と解したが、何れも充分妥当な解釈ではない。管見によれば、本例は玄本の「皆那」を採用して、「那」(nuo, na) は néo (núu; 引留める、保持する) を表わす考えた方がよいと思う。

487 捉拏 八根:(玄本) 別那

bắt néo

筆者及び Gaspardone 氏は曾って「八」を bắt (捉える)、「根」を cầm (擒の SV) と解したが、寧ろ玄本に従って「別」(AC biat) を bắt の音註を見、「那」は No. 486 と同じく néo (núu) を表わすと考えたい。

488 商量 般浪 (pen lag); (倫本) 喘浪 (玄本) 張梁

bàn luận (SV)

「般」は bàn (相談する)、「浪」は luận (論の SV) を表わす。倫本の「喘浪」(ts'uan lag) 及び玄本の「張梁」(t'iang liang) は thương lượng (商量) を表わすと見られる。「浪」は本例の外、No. 713 にて lúng (慢、のろろ) を表わす。

J 身体 門 (Nos. 489-535)

489 頭 斗

đầu (SV)

天明訳語は「ラウ」と訳する。別に寛政訳語は「ポシヤ」となす。如何なる語を訳したのか不明。

490 口 明 (mieg)

miêng

「明」は本例及び Nos. 525, 618 にて均しく *miêng* (口) を表わす。交稿は「皿」(*mieŋ*; 明と同音) をあてる。天明訳語は「メル」と訳すが、これは「メン」の誤であろう。又寛政訳語は「モウ」となす、これは *móm* を表わす。  
*miêng, móm* 共に口腔に指す語である。

491 鼻 梅 *múi*

天明、寛政両訳語共に「モイ」と訳す。

492 舌 雷 *luó'i*

天明訳語は「レウ」、寛政訳語は「ロイ」となす。何れも *luó'i* を表わす。

493 手 歹:(玄本)大 *tây*

「歹」と「大」(<sup>EM</sup><sub>MM</sub> *ta*) は同音。天明訳語も「タイ」と註する。

494 脚:(近本)肺 真 (*tšien*) *chân*

語義部份は「脚」が正しい。「真」は本例及び Nos. 517, 519 にて *chân* (= *chon*; 脚、あし) を表わす。天明訳語は「チョン」と訳す。

495 面 慢 *mät*

496 心 朗:(玄本)闌 *lóng*

「朗」と「闌」は同音。

497 腹 達:(玄本)幅 *da*

玄本の「幅」(*fu*; AC *piuk*) は *phúc* (腹の SV) を表わす。

498 皮 達 *da*



499 鬚 薊 (t'sou)

râu

「薊」は râu (鬚、ほくひげ) を表わす。

500 喉 桑 (sān)

xoang (SV)

「喉」(のど) に当る越語は普通 hong 或は hâu (喉の SV) であるが、何れも「桑」の音と合わない。かくて、「桑」は xoang ((口)腔の SV) を表わしたものと考へざるを得ない。Gaspardone 氏は本例の解釈を欠く。

501 智 弄朗：(玄本) 兄 (xiung)

hung (SV)

筆者及び Gaspardone 氏は曾つて \*tlong (trong) lòng と解したが、これは抽象的な「心の内」であり、具体的な「胸」に当らない。かくて、玄本の「兄」によつて hung (胸の SV) とすむのが妥当と云うことになる。但し、「胸」のことは普通 ngực と称する。

502 乳 布 (pu)：(玄本) 入

vú

「布」は vú (乳房) を表わす。玄本の「入」(zin) は như (乳の SV) を表わすのであろう。天明訳語は「カイブウ」と訳す。これは cái (陪数詞) vú のことであらう。

503 牙 生：(玄本) 雅

\*sāng (rāng)

本例の「牙」は身体門に属するので、動物の「きば」のことではなく、人間の「歯」のことである。筆者は曾つて「生」を sūng と解したが、この語は動物の「角」又は「頭」の義で、「牙」(齒)の意味ではない。故に「生」は \*sāng (rāng) を表わしたものと解せられる。玄本の「雅」(AC nga) は ngà (牙の SV) を表わす。Maspero, Gaspardone 両氏共に「生」を rāng と解する。「齒」に対して、天明訳語は「シヤム(ン)」、寛政訳語は「ラン」とあてる。何れも rāng を訳したものである。

504 唇 梅; (玄本) 屯

môi

玄本の「屯」(tun)は thân (唇の SV) を表わす。

505 血 帽

máu

506 肉 席 (si)

\*sit (thit)

「肉」に当る近代越語は thit であるが、俚語諸方言では尚 sit なる語形を存しているので、「席」は \*sit (◇thit) を表わしたものと見られる。「席」は尚 Nos. 570, 599, 600, 619 で同音を表わす。

507 肝 間 (kian)

gan

「間」は本例及び No. 533 にて gan (肝、胆) を表わす。

508 脈 黒 (墨) (mei)

mạch (SV)

音註の「黒」は明らかに「墨」(AC mak) の省であり、mạch (脈の SV) を表わす。

509 胆力 胆十 (tan Si); (玄本) 胆力

súc đăm (SV)

「十」(AC ziep) は súc (力) を表わす。玄本の「胆力」は đăm lực (胆力の SV) を表わす。「胆力」のことは普通 gan と称する。

510 汗気 灰亥 (xuei xai); (玄本) 罕其

hôi hôi

「灰」は hôi (汗) を表わし、「亥」は本例で hoi (氣、にはい) No. 527 にて hay (知る) を表わす。玄本の「罕其」は hàn khí (汗気の SV) を表わす。近代越語では「汗」のことを普通 bò hôi と称する。玄本は Nos. 509 と 510 を「胆氣―胆其」、「汗力―罕力」となす。これは筆写の際の誤りである。

511 脳後 斗稍; (玄本) 牢候

sau đầu (SV)

玄本の「牢候」(lau xou) は *não hầu* (脳後の SV) を表わす。

512 太陽 托爛: (玄本) 太中 (*t'ai t'jung*) *thai (SV) duong (SV)*

本例の「太陽」は勿論「太陽穴」即ち、「こめかみ」のことである。越語で「こめかみ」のことは「太陽」の二字の SV をよつて *thai duong* と称し、それ以外に名称がないので、筆者は曾つて本例の音註は「拾潤」(*tai syan*) ならんと推定したが、今度玄本を参考するに至り、その音註「太中」が明らかに *thai duong* を指することが判明した。Gaspardone は諸本の「托爛」両字を以て *\*tlan (▷trán)* と考えられたが、*\*tlan (▷trán)* の義は「額」(ひたし) のことであつて、「こめかみ」ではない。

513 鼻梁 梅省: (玄本) 即梁 *sông mũi*

越語で「鼻梁」又は「脊梁」の「梁」は *sông* と称する。諸本の「省」は明らかにこの語の対音である。Dict. も “*os narium*” (鼻骨) を *sou mũi (sông mũi)* とす。Gaspardone 氏は *xuong* と解するが、これは一般の「骨」を指す語である。玄本の「即梁」は *ti luong* (鼻梁の SV) を表わしてゐる。

514 眼珠 言主 (*ien t'ju*): (内本) 言主 *nhân (SV) châu (SV)*  
(玄本) 言主

音註は「言主」(言主は同音) が正しく、*nhân châu* (眼珠の SV) を表わす。但し、普通の越語では「眼珠」(眼玉) のことは (*con*) *mắt*、*「瞳孔」* のことは (*con*) *ngươi* と称する。交稿は「眼」に未(末)、寛政訳語は「マア」とあつて均しく *mắt* を表わしている。天明訳語は「ロベ」と訳すが、これは恐らく「ロマ」の誤りで、*con mắt* の音註であらう。

515 鼻孔 梅空: (近本) 梅室 *không (SV) mũi*  
(玄本) 即空

音註は「空梅」が正しい。普通の越語は *lỗ mũi* と称する。玄本の「即空」は *ti không* (鼻孔の SV) を表わす。

516 手指 歹岸 (tai an); (玄本) 大止

ngón tay

「岸」(AC ngán) は本例及び No. 517 にて ngón (指) を表わす。玄本の「大」は tay (手)、「止」は chi (指の SV) を表わす。天明訳語は「コンタイ」と称す。

517 脚指 真岸 (tjien an); (玄本) 真正

ngón chân

音註は「岸真」が正しい。玄本の「正」は「止」の誤写で、上例同様 chi (指の SV) を表わす。

518 腿肚 堆朗; (玄本) 達

đuì lòng

按ずるに本例は「腿」(もも)と「肚」(はら)の両訳語が混同したものである。即ち「腿—堆」及び「肚—朗(達)」の両例に分けて考えるべきである。前者では「堆」(tuei)は đuì (腿)・後者では lòng (心、腹)を表わす。玄本の「達」は dà (腹)の音註である。若し本例を「腿肚子」(即ち腓、ふくらはぎ)と解すると、これは相当する越語は bắp chân であり、上掲の音註は何れもこれに妥当しない。(序みに腿—ももに相当する越語は bắp đuì である)。Gaspardone 氏は本例を lòng đòì と解する。その根拠は不明である。

519 脚跟; (玄本) 脚跟 真跟; (玄本) 脚貞 (kau tjien) gót chân

本例の訳語は「脚跟—脚真」が正しい。「脚跟」は即ち「かがと」のことである。「脚」(AC kiak) は gót (かかと)、「真」は chân (脚、足)を表わす。ちなみに「くるぶし」のことは mắt cá chân と称する。

520 梳頭 勒斗; (玄本) 則斗 (tsai tou) chải đầu (SV)

「勒」は No. 363 にて名詞「梳」(櫛)の義の lược を表わしているが、動詞「梳る」場合は lược とは二つわけ、chai と称する。故に諸本が「勒」を音註に使うのは現実に即しない機械的なあて方である。「則」は明らかに chải を表わす。

521 光頭 上斗 (Siap tou)

sàng đầu (SV)

「光頭」は帽子を被らない丸出しの頭と禿頭の双方の意味があるが、本例は後者の場合を指す。筆者は曾って「上」を *sàng* (明る) と解したが、Gaspardone 氏は *sôi* (禿) を表わすとみている。併し、「上」を *sôi* の音註と見るのは無理であるから、存疑のまま *sàng* をあてておく。近代越語で「禿頭」のことは普通 *hôi đầu* と称する。

522 洗臉

執慢: (内本、近本、河本、静本、倫本) 熱慢

rửa mặt

音註は「熱慢」(慢と蚤は同音)が正しい。

523 開眼

麦言: (玄本) 黒慢

mở mắt

音註は諸本と玄本を折衷して「麦慢」とするのが正しい(玄本の「黒」は「墨」の譌)。諸本の「言」(AC ngjan) は *nhân* (眼の SV) を表わすが、本例では *mở nhân* と云うよりも、*mở mắt* と解した方が実際的である。

524 閉眼

雜干言: (静本、近本、倫本) 雜干言  
(玄本) 雜干慢 (tsa kan man)

chấp con mắt

音註は玄本の「雜干慢」が正しい。「雜」(AC dz'áp) は本例にて *chấp* (閉める)、No. 668 にて *tía* (紫色の)、No. 696 にて *tả* (左の SV) を表わす。Gaspardone 氏は本例を *thấp xuống mắt* と解するが、これは「眼を下にやる」義になる。俗に *nhắm mắt* と称する。

525 開口

表明: (玄本) 張明

mở miệng

玄本の「張」(tSiap) は *truông* (張の SV) を表わす。現に *truông mắt* (眼を大きく見開く) なる用例があるから *truông miệng* の如き語もあつたらう。但し、*mở miệng* の方が普通より多く用いられる。

526 眼跳

言刀: (倫本、河本、静本) 言刀  
(近本) 言才 (玄本) 慢刀

mắt điều (SV)

音註は玄本の「慢刀」が比較的適當であらう。「刀」(*tiau*) は *dau* (痛い) を表わすともとれるが、語義に「跳」が

ある以上、「眺」の SV たる *diêu* を指すものと考へざるを得ない。Gaspardone 氏は *nhân đao (diêu)* と解するが *nhân* は「眼」の SV であるからともかくとして、*đao* の方は「刀」の SV で本例の語義と合わない。

527 知心 亥朗；(内本)系朗

*hay lòng*

音註は「亥朗」が正しい。筆者は曾つて「亥」(*xai*)を *hiểu* (理解する)と解したが、本例は Gaspardone 氏の如く *hay* (知る)にとつた方がより妥当である。

528 心寛 朗中

*lòng rộng*

Gaspardone 氏は *trong (thuong) lòng* とす。併し *thuong* は「慈しむ」義であり、*trong* は「見る」義であるから本例には適合しない。「中」(*tsung*)は *rông* (広い、寛容な)を表わすと見た方が合理的である。

529 心焦 朗東；  
(近本)朗東  
(玄本)罔朗

*lòng sốt*

音註は諸本の「朗東」が正しい。「東」(*AC sít'ok*)は *sốt* (熱、熱い、焦慮する)を表わすのであろう。Gaspardone 氏は「東」を *sơ* とよむが、これは「恐れる」と云う意味である。

530 心直 朗衰；  
(河本、近本、静本、倫本)朗衰  
(玄本)竜衰

*lòng ngay*

音註は「朗衰」が正しい。「衰」は *ngay* (正しい、直ぐな)を表わす。Gaspardone 氏は *ngay lòng* と解するが、*ngay (ngai)* は「礙」の SV で、「躊躇」する義であり、本例に合わない。

531 心善 朗鐸；  
(倫本)朗巫  
(玄本)竜朗

*lòng tốt*

諸本の「朗鐸」は *lòng tốt*、玄本の「竜朗」は *lòng lành* を夫夫表わしているが、どちらも語義は「善良な心」である。本例ではかりに前者を採る。倫本の「朗巫」は下例 (No. 532) の「朗鐸」と置きちがらになつてゐる。

532 心悪 朗巫；  
(倫本)朗鐸  
(玄本)竜則

*lòng hư (SV)*

音註は諸本の「朗巫」が比較的妥当である。玄本の「童則」(Tung tsai)は lòng đờ (愚かな心)を表わすのかも知れないが、本例の音義共に合わない。Gaspardone 氏は lòng ác (悪のSV)と解するが、語義の方は妥当であるけれども「巫」を ác の音註と見るのは音韻的に云つて無理である。(No. 419 参照)。

533 大胆 夏旦:(玄本)夏間 *cả gan*

諸本の「夏旦」は *cả đăm* (胆のSV)を表わすが、玄本の「間」(kan)は gan (肝、胆)を表わす。実際の語例では前者の如く越読と俗語が混ざるよりも、後者の如く、二語とも俗語の方が自然である。近代越語では「大胆」のことを *to gan* と称する。

534 叉手 斂歹 (xan tai): (倫本)斂歹 (玄本)平歹 *khoanh tay*

「叉手」は「両手をこまねく」義で、これに相当する語は *khoanh tay* 又は *bo tay* である。「斂」は「こまねく」義の *khoanh* を表わす。倫本の「斂」は「斂」の誤写であるが、玄本の「平」の対音は見当が付かない。

535 拍手 播歹 (po tai): (近本)擅歹 (玄本)別歹 *vỗ tay*  
音註は「播歹」が正しい。「播」は *vỗ* (拍手する、たく)を表わす。

K 衣服 門 (Nos. 536-566)

536 鞋 海 (xai) *hài (SV)*

「海」は *hài* (鞋のSV)を表わす。俗称は *giày* (giày) である。

537 襪 乜 *miệt (SV)*

「乜」は *miệt* (襪のSV)を表わす。近代越語は *bít tất* と称する。

538 衣裳 傲 (au)

áo

天明訳語は「アウ」と訳する。

539 円領 鸞令 (EM lon lian) ; (玄本) 改吝 (MM Iuan ling)

lǎnh (SV) \*tòn (tròn)

音註は「鸞令」が比較的解釈しやすい。「令」は本例及び No. 549 について lǎnh (領の SV) を表わす。「領」は即ち「襟」(えり) のことであり、俗語では cǒ (áo) と称する。玄本の「改吝」(kai lian) は cǒ \*tòn と解したい所だが音韻的に云つて無理であろう。

540 大帽 夏謨

mù cá

541 小帽 別謨

mù bé

542 紗帽 此謨 ; (近本、河本、内本) 些謨 (sie mou) ; (倫本、玄本) 玄本

mù \*se (the)

音註は玄本の「些謨」が正しい。諸本の「此」は「些」の誤伝である。「些」は本例にて \*se (the; 紗) を表わし、No. 704 について sura (稀な、まばらな) を表わす。

543 束帯 擺大 (pai tai) ; (玄本) 奇大

buộc đai (SV)

本書に於ける音註の一般的傾向から見て、諸本の「擺」は「束」(しばる、結ぶ) 義の動詞を現わし、「大」は đai (帯) の SV) を表わすことは明らかである。前者に相当する語としては buộc と thật の両語が考えられるが、玄本の「奇」(ki) ではどしちにも妥当しないので、けつきよく、「擺」は buộc を表わすと解せざるを得ない。Gaspardone 氏は bài đai と解する。

544 絲線 多即 ; (近本、内本) 多即 ; (玄本) 四即

chi to

「絲線」は「絹糸」のことである。音註は「多即」が正しい。「多」(tuó) は to (絹糸; fil de soie)、「即」(tsi) は



chi (糸)を表わす。玄本の「四」は sơi (糸の陪数詞)を表わし、sơi chi で「糸類」を指すらしい。Gaspardone 氏は近本に従ったので lụa tơ と解せられた。

545 布衣 帛傲 (pai au); (玄本) 白傲 áo vải

「帛」(白は同音)は本例及び Nos. 556-559 にて vải (布、布製の)を表わす。

546 夾衣 夾傲 (kia au); (玄本) 傲甲 áo kép

「夾衣」は「裕」(あわせ)のことである。「夾」(AC kap; 甲は同音)は káp (はちむ、かざる)を表わす。Gaspardone 氏は áo cáp と解するが、cáp は「たばちむ」義で、本例に合わなう。

547 単衣; (玄本) 草衣 単傲; (近本) 軍傲 (玄本) 傲丹 áo đơn (SV)

本例の語義は「単衣」、音註は「傲単(丹)」が正しい。

548 汗衣 灰傲; (玄本) 漢傲 áo hôi

玄本の「漢」(xan)は hân (汗の SV)を表わす。

549 衣領 傲令 lãnh (SV) áo

550 衣襟 傲補; (玄本) 補傲 (pu au) bâu áo

「補」は bâu (襟; col de l'habit)を表わす。

551 衣帶 傲大 áo đai (SV)

552 縫衣 埋傲 (mai au) may áo

「埋」は may (裁縫する、仕立てる)を表わす。

553 補衣 八傲 vá áo

554 錦被 艮站; (玄本) 站艮 (EM tSam ken / MM tsan ken)

chăn căm (SV)

「被」は「布団」のこと、従つて「錦被」は「錦布団」を指す。「艮」は căm (錦の SV) を表わし、「站」は本例及ぶ No. 555 及び chăn (布団)・Nos. 636, 637 とし chén (蓋、ゆかちや) を表わす。

555 単被 単站

chăn đon (SV)

玄本は本例を欠く。

556 白布 八帛; (玄本) 八栢

vài bạch (SV)

「帛」と「栢」は同音。

557 青布 蒼帛; (玄本) 蒼八

vài xanh

音註は「蒼帛」に従う。玄本は前例 (No. 556) では「八」を以て bạch を表わし、本例では「八」を以て vài の音註となす。かゝる音註使用の不統一は玄本の欠点である。

558 西洋布 得揚帛; (近本) 得洋帛 (河本) 得楊帛 (玄本) 得陽部 (tei iang pu)

vài tay (SV) dương (SV)

本例の「西洋」は明代に「東洋」に対して使用された地理称呼で、現今の東南アジアの西南地域、即ち印度支那、馬來、スマトラ、爪哇、ブルネイ以南のボルネオ諸地を指す。これに対して、「東洋」は台湾、呂宋、蘇祿、西里伯、モルツカス、ブルネイ以北のボルネオ諸地方を指す (詳細は張燮の東西洋考参照)。故に「西洋布」とは上述の「西洋」地域、特に馬六甲 (マラッカ) 方面から舶来された布類を指す。諸本の音註で、第一字の「得」は tay (西の SV)、第二字の「揚」(洋、楊、陽、均しく同音) は dương (洋の SV) を表わす。第三字の「帛」は vài (布) を表わす。玄本の「部」(pu) よりも「帛」(pai) の方が音韻的に近い。

559 葛布 葛帛 (ko pai); (玄本) 各白

vài cát (SV)

「葛」(AC kat) は *cát* (葛、くずの SV) を表わす。玄本の「各」(AC kák) は同じく *cát* を表わすが、音韻的には多少劣る。

560 手巾 歹根 (*tai ken*); (玄本) 大堪 *khàn* (SV) *tay*

玄本の「堪」(*k'an*) は有気音で、それだけ音韻時に *khàn* 近いけれども、No. 562 の「巾」に対して玄本も「根」をあてているので、本例では採らない。

561 枕頭 針斗 (*t'jiem tou*) *châm* (SV) *dâu* (SV)

「針」は *châm* (枕の SV) を表わす。近代越語では *gôi* と称する。按ずると、官話の「枕頭」は「枕」の義であるから単に *gôi* と称すれば足りる。「針斗」(*châm dâu*) は機械的な音註である。

562 網巾 累根; (近本) 黒根 (玄本) 王根 *khàn* (SV) *lur'oi*

「網巾」に就いては緑雲亭雜言に、「以絲結網為巾、用以裹髮者、蓋始於明初」と見えて居り、云はば今日のヘアネットに相当する。玄本の「王根」(*uaj ken*) は *vông khàn* (網巾の SV) を表わすが、本例は諸本の「累根」に従うことにする。

563 雨籠 麦弄; (玄本) 無竜 *lông* (SV) *mưa*

本例の「雨籠」は No. 369 の「簍」と同じく、棕櫚の葉で作った「みの」のことである。玄本の「無竜」は *vũ lông* (雨籠の SV) を表わす。

564 皂靴 遭灰 (*tsan xuei*) *tao* (SV) *huê* (SV)

「皂靴」とは朝服を着する時に穿く長靴のことである。「遭」は *tao* (皂の SV), 「灰」は *huê* (靴の SV) を表わす。Gaspardone 氏は *hai tao* と解するが、*hai* は「鞋」の SV であり、*tao* は第一人称代名詞である。

565 白靴 八灰

bạch (SV) huê (SV)

566 蠟靴 喇灰（倫本）欠文（玄本）刺灰

lập (SV) huê (SV)

「喇」と「喇」とは同音。「喇」(AC lát) は lập (蠟の SV) を表わす。

L 飲食門 (玄本・食饌門) (Nos. 567-619)

567 茶 者 (tjie)

trà (SV)

Gaspardone 氏は本例を chè (trà) と解するが、chè は俗に二種類に分れ、一は普通の茶の葉を用いる所謂お茶であり、一は緑豆又は小豆で作った「お什粉」類の飲物を指すので、本例では「者」は trà (茶の SV) を表わすと専ら解した方が妥当である。

568 飯 干（近本、静本）干（倫本、玄本）

corn

音註は「干」(kan) が正しい。天明訳語は「コム」とあて、寛政訳語は「ガンウン」とあてる。前者は corn の訳で、後者は「アンコン」の誤伝らしく、ăn cơm (御飯をたべる) を表わしたのであろう。

569 酒 饒 (zian)

ruou

「饒」は本例及び Nos. 602-607 にて ruou (酒) を表わす。Gaspardone 氏は riêu (ruou) と解す。

570 肉 席 (si)

\*sit (thit)

571 醋 忍 (zian) ; (玄本) 震

giâm

「忍」は giâm (醋) を表わす。「震」(tzien) も同音を表わすと思われるが、越語 gi- 母の音値は z- であるから、giâm に対する音註としては「忍」の方が適当である。

572 油 有 (iou) dầu (SV)

「有」(AC ieu) は dầu (油の SV) を表わす。

573 塩 売 muối

574 醬 将; (玄本) 登 (tan) tương (SV)

「醬」は「味噌」のことで、越語では tương (醬) と称する。玄本の「登」はこの音を表わしたのである。Gaspardone 氏は chàm と解するが、これは味噌、醬油、醋等を「しける」義である。

575 食 安; (玄本) 食 ăn

玄本の「食」(AC dz'ak) は thực (食の SV) を表わすらしい。

576 鹹 蛮 mặn

Gaspardone 氏は măm となす。これは脂肪のことである。

577 淡 单 đằm (SV)

578 酸 多 chua

Gaspardone 氏は dăng となすが、これは「大声を出す」の義である。

579 甜 我 (uo) ngọt

「我」(AC ngâ) は ngọt (甜、甘い) を表わす。

580 粥 皂 (tsau) cháo

「皂」は cháo (粥、かゆ) を表わす。亨保訳語で「かゆをくう事」に「マンチャウ」とあてる。これは「アンチャウ」の誤伝で、原語は an cháo である。

581 湯 食 (EM t'am)  
(MM t'an)

thang (SV)

本例の「湯」は「汁物」、「吸物」のことで、「食」は *thang* (湯の SV) を表わす。俗には *canh* と称する。寛政訳語は「湯」(ゆ)に「ノラヒ」をあてる。これは *nước* (水) を表わしたのであろう。

582 麪 泩 (*mian*)

*mien* (SV)

「泩」は *miên* (麪、麵の SV) を表わす。

583 蜜 麥;(玄本) 党

*mật* (SV)

玄本の「党」(*tag*) は本例の「蜜」を砂糖の意味にとり、*đường* (糖の SV) を表わしたのである。

584 鮓 卓;(玄本) 沙 (*sa*)

*sa*

漢語の「鮓」には二義あり、一は「塩漬の魚」であり、一は「水母」(くらげ)である。筆者は曾って「鮓」を「鮮」の誤伝と推考して、「卓」(*t'au*) を *tuoi* (新鮮なる) の音註と解したが、これは明らかに誤解である。Gaspardone 氏は「卓」を *chà* (鮓の SV) と解したのは正しいが、越語の *chà* には二義あり、一は「焼肉」であり、一は「塩魚」であつて紛はらしいので、本例は玄本に従つて、「沙」で以て *sua* (くらげ) を表わすと解した方が無難であらう。

585 腥 丁 (*tieng*)

*tanh*

「丁」は *tanh* (腥) を表わす。

586 飲;(倫本) 飯 甕 (*ung*)

*ung*

語義は「飲」が正しい。「甕」は本例及び No. 607 にて *ung* (飲む) を表わす。享保訳語は「水を呑むこと」を「ヲニヒ」(*ông nước*) と訳する。玄本は本例を欠く。

587 咬 幹;(玄本) 交

*cân*

「幹」は *cán* (咬む) を表わす。玄本の「交」は *giào* (咬の SV) を表わすのであろう。もつとも玄本には「腥咬」  
「咬嚼」の両例があり、前者の咬には「交」を音註とし、後者の「咬」には「幹」をあてている。

588 嚼 哀: (玄本) 衰 *nhai*

玄本の「衰」は「哀」の誤伝である。

589 噙 欽 (*k'iem*) *ngâm*

「噙」は「(口に) ふくむ」義であるから「欽」(*Ac k'iem*) は *ngâm* (口に含む) *garder dans la bouche fermée* を表わすものと解せられる。尚「噙」の SV は *câm* である。Gaspardone 氏は *ngoâm* と解するが、これは *ngoâm* (*ngâm*) の誤伝らしへ、「嵌める」義である。

590 切 戛 *cât*

591 剩 成 (*t'ien*) *thăng* (SV)

「成」は *thăng* (剩の SV) を表わす。近代越語で「剩」(余る、のこる) 義の語は普通 *du* (余の SV) 又は *thừa* である。

592 菜蔬 稍 *rau*

「菜蔬」は「蔬菜」(野菜) のことである。

593 胡椒 虎高 (*xu kau*) *hột cay*

「胡椒」は越語では普通の SV をとつて *hột tiêu*, 又は *hột (hạt) tiêu*, 又は *hạt cay* と称する。*hột* (又は *hạt*) は植物の種子や穀物の粒子の倍数詞であり、*cay* は「辛い」(*piquant*) と云う原義から胡椒を指す語となる。本例の「虎」は *hột* を表わし、「高」は *cay* を表わすと思われる。筆者は曾つて「椒」の SV は *tiêu* 以外に *kiêu* と云う

別音があつたと推定し、これを「高」の対音と見、又 Gaspardone 氏は *cay hó* と解したが、何れも妥当ではない。

594 花椒 滑高：(玄本) 華高 *cay hoa*

「花椒」は「山椒」のことである。「滑」と「華」は同音。

595 草菓 葛拝：(玄本) 各拝 *\*blai (trái) có*

596 早飯 甚于：(倫本、近本、静本) 甚干 *com sòm*

音註は「干甚」が正しく、*com sòm* を表わす。*sòm* は時間的に早い意味である。普通は *com sàng* (朝飯) と称する。玄本の「指」は如何なる音を表わすか不明。

597 中飯 冲于：(近本、静本、倫本) 冲干 *com trung (SV)*

音註は「干冲」が正しい。「冲」は *trung* (中の SV) を表わし、*com trung* で「中飯」、即ち「昼御飯」の義となる。但し普通は *com trua* と称する。「干冲」(*com trung*) なる云い方は頗る機械的な註音と云わねばならぬ。玄本の「寛」(*k'uan*) は或は「究」(*tsiu*) の誤伝かも知れない。若し「究」ならば *trua* と解することが出来よう。

598 晚飯 对于：(静本) 对平 *com toi*  
(近本、倫本、玄本) 对干

音註は「对干」が正しい。

599 生肉 僧席：(玄本) 席空 *\*sit (thit) sòng*

音註は「僧席」に従う。玄本の「空」(*k'ung*) は *\*k'ông* (◇*không* > *sông*) なる音韻の変遷を推測せしめる。

600 熟肉 尽席：(玄本) 席尽 *\*sit (thit) chín*

601 豆腐 鐸符 (to fu)：(玄本) 斗符 *đâu (SV) phụ (SV)*

「符」は *phụ* (腐の SV) を表わす。「鐸」(to) と「斗」(ton) は近似者。本例では「鐸」を採り、*đâu* (豆の SV)



の音註と見なす。

602 焼酒 焼饒：(近本) 焼飯 (玄本) 饒焼 (ziau siau) ruon thiêu (SV)

「焼酒」は即ち「焼酎」のこと。「焼」は thiêu (焼の SV) を表わす。普通の会話では「焼酒」両字の SV をとって thiêu ruon と称する。

603 黄酒 罔饒：(倫本) 罔饒 (玄本) 饒罔 ruon vàng

604 白酒 八饒：(玄本) 饒八 ruon bạch (SV)

605 单饒 淡酒：(玄本) 饒納 ruon nhát

「淡酒」は「薄酒」(vin fade) のこと。諸本の「单」は đăm (淡の SV) を表わすけれども、本例では玄本の「納」(AC nháp) を採って、nhát (味気ない、味のうすい) と解した方がよい。

606 奠酒 達饒 tè (SV) ruon

筆者は曾って「達」(ta) を rót (注ぐ) と解したが、本例の「奠」は「神前に供う」、「薦む」義であるから Gaspar-done 氏の如くに「達」を tè (祭の SV) と見て、tè ruon と解した方が比較的妥当である。尚、普通に「酒を注ぐ」は rót ruon 又は đổ ruon と称す。

607 飲酒：(玄本) 食酒 甕饒 uông ruon

608 白米 八稿：(玄本) 八交 gào bạch

609 碎米 屯稿 (tuan kau)：(玄本) 交屯 gào tằm

「屯」は tằm (碎米；débris de riz) を表わす。普通 tằm だけで既に「碎米」を指すが、gào を添えて、gào tằm と称することもある。Gaspardone 氏は đăm gào と解するが、đăm は「刺す」、「衝く」義である。

610 麤糠：(玄本)粗糠 多阻：(玄本)勾阻 *trầu thô* (SV)

「麤」は「麤」の略字で、「粗」「牠」と相通じる。官話で「麤糠」の義は「粃がら」のことであり、近代越語は *trầu*, *Dict.* は *tầu* とす。「阻」(*tSu*) は本例及び No. 611 にて *trầu* を表わし、「多」(*tu*) は *thô* (粗の SV) を表わす。但し、実際の語例では *trầu* 一語で既に「麤糠」(粃がら)のことで、*thô* (粗) をつける必要はなく、本例の如く、*trầu thô* と称するのは直訳的な音註の仕方と云わねばならぬ。Gaspardone 氏は *trầu to* とすが、*to* は「大きい」義であり、本例の「麤」(粗)は「粗い、荒い」義であるから、「多」は矢張り *thô* (粗の SV) を表わすと解すべきである。玄本の「勾」(*kou*)は何の音を表わすか不明である。

611 細糠 牙阻 (*ia tSu*): (玄本)卓阻 *trầu nhỏ*

官話で「細糠」と云うのは「糠」(ぬか)のことで、近代越語では普通 *cám* と称する。本例では上例 (No. 610) と同じく直訳的な音註で、「糠」に対して「阻」をあてて *trầu* を表わし、「細」に対して「牙」(*AC nga*) をあてて *nhỏ* (小さい)と読ませている。「牙」は本例以外に No. 712 にて同音を表わす。玄本の「卓」(*tSau*)は何の音の音註であるかわからない。

612 温水 問匿 (<sup>EM van ni</sup><sub>MM nen ni</sub>): (玄本)問泥 *nước ấm*

「問」は本例で *âm* (温い、暖かい)、No. 653 で *văn* (文の SV) を表わす。

613 熱水 僕匿：(玄本)卜泥 *nước bức*

Gaspardone 氏は *nước bức* と解する。*bức* の語義不明。

614 烧火 烧厄：(玄本)退兀 (*t'uei u*) *thời lửa*

諸本の「烧」は *thieu* (烧の SV) を表わすが、本例にては玄本の「退」によつて *thời* (吹く、火をおこす)とよんだ

方が実際の語法にかなっている。又「兀」(Ac nguet)は本例及び下例(No. 615)にて lửa (火)を表わしている。「火」(lửa)に対して、寛政訳語は「ロウ」、天明訳語は「レウ」と註する。

615 放火 翁厄:(玄本) 邦兀 *phóng (SV) lửa*

「翁」(uŋ)は *phóng* (放の SV)を表わすと思われる。玄本の「邦」(paŋ)は *bán* (発射する、放つ)を表わすのである。

616 飯飽:(倫本) 飲飽 干那: (倫本) 干那 (内本) 干那 *corn no*

音註は「干那」が正しい。Gaspardone 氏は *no cãnh* となす。意味不明である。

617 肚餓 朗対:(玄本) 対闐 *lòng đói*

「朗」と「闐」は同音。普通の会話で、本例の場合は「肚」(おなか)に当る語として *bụng* を用い、*bụng đói* と称する。

618 口渴 明各 *miêng khát (SV)*

619 割肉 当席 (tag si) *đón \*sit (thit)*

「当」は *đón* (割る、伐採する) 義の動詞 *đón* を表わす。但しこの語は現今では *đón củi* (薪を割る)、*đón cây* (木を切倒す) の如く専ら木材に対して用いられ、「肉」に対しては普通 *thai* (切る)、*chặt* (切る)、*bằm* (細切れにする) 等の動詞を用いる。筆者及び Gaspardone 氏は曾って「当」を *thai* と解したが、音韻的に云って無理である。

M 珍 宝 門 (Nos. 620-649)

620 金 罔 (vàng) *vàng*

621 銀 秤：(近本、倫本、玄本) 拔

bạc

音註は「拔」が正しい。

622 銅 董

đồng (SV)

623 鉄 殺：(玄本) 客

sắt

玄本の「客」(k'ò; AC k'ak) の対音は不明。

624 錫

救：(内本、近本、河本、倫本) 剝  
(玄本) 迪 (ti)

thiếc

筆者は曾って本例の音註は剔 (ti) と推定して、これを tích (錫の SV) と解したが、玄本の「迪」(AC d'iek) に依って thiếc (錫) と解した方が妥当である。

625 鉛 濟 (tsi)：(玄本) 煙

chì

「濟」は chi (鉛) を表わす。玄本の「煙」(ien) は duyen (鉛の SV) の音註であろう。

626 玉石：(倫本、近本、河本) 玉石

物喇大：(近本) 物刺大  
(玄本) 欲食 (iu s'i)

ngọc (SV) thạch (SV)

若し諸本の音註に従うならば、本例の音註は「物大」の両字で足り、「物」(AC miuet) は ngọc (玉の SV)、「大」(ta) は thạch (石の SV) を表わすと考えられる。併しこの場合、「大—thạch」の関係はともかくとして、「物」で ngọc を表わすのは可成りの無理がある。これに反して、玄本の「欲」(AC i'wok) は ngọc、「食」(AC dz'iek) は thạch を表わすと、その間の音韻関係はもつと近いことが察せられる。Gaspardone 氏は近本の「物刺大」によつて là đá ngọc と解する。

627 水晶 匿静 (ni tsian)：(倫本) 匿籍  
(玄本) 兀静

nước tinh (SV)

「匿」は nước (水) を、「静」は tinh (晶の SV) を表わす。本例の音註も機械的なあて方であつて、実際の語法

は *thủy tinh* (水晶の SV) とよんでゐる。

628 象牙 翁威: (内本、近本、河本、倫本) 翁威生  
(玄本) 哈威 *sùng (ông) voi*

本例は No. 288 と同じである。玄本の「哈」(AC xap) は *ngà* (牙の SV) を表わさんとするのであろうか。

629 寶石 憂喇大: (河本) 憂喇大  
(玄本) 刺達 (*la ta*) *đa đát*

諸本の音註では解釈出来ないので、筆者は曾つて、「憂」、「憂」共に「宝」の誤伝と推定して、「宝(喇)大」で *bảo thạch* (宝石の SV) と解し、Gaspardone 氏は河本の「憂」(*iu*) に注目して、これを *yêu* (愛する) の音註と見、本例を *la đa yêu* と解したが、何れも無理な解釈である。幸にして玄本は「刺達」とあてる。これに従えば、「刺」は *đa* 「達」(AC *dat*) は *đát* (高価な、高貴な) を表わし、双方で *đa đát* となる。

630 金壺 罔宝: (玄本) 罔禀 (*vap piap*) *bình (SV) vàng*

筆者及び Gaspardone 氏はかつて本例及び下例 (No. 631) の「宝」を *vò* と解したが、*vò* は土製の「甕」(かめ) 又は「壺」(じぼ) で、その口は栓をほどこされて、酒や *nước mắm* (魚醬) の貯蔵に用いられる。又 *vò* よりも大型の土製の容器は *chum* (大甕) であつて、その口は広くて、蓋が出来るようになって居り、主として飲料水を貯える。要するに *vò* にしても、*chum* にしても、何れも土製であつて、未曾つて金銀製のものをきいたことはない。故に本例及び No. 631 の「壺」に対しては玄本の「禀」を音註に採用して、*bình* (瓶の SV) を表わすと解した方が合理的である。 *bình* ならば金銀製のものは有得る。

631 銀壺 拔宝: (玄本) 拔禀 *bình (SV) bạc*

632 金盆 罔門: (玄本) 罔莧 *mâm vàng*

音註は「罔門」が正しい。 *mâm* は普通銅製又は木製の盆のことで、食物をのせるお膳のことである。玄本の「莧」

(tʃ'ou) は chầu (鉢、たらいの類) を表わすのであろう。

633 金牌 罔牌：(玄本) 罔排

bài (SV) vàng

「牌」と「排」は同音。

634 金鍋 罔内

nồi vàng

635 金線 罔即

chi vàng

636 金台盞 罔台站：(玄本) 站

chén đài (SV) vàng

「金台盞」は即ち「金の台がついた杯」のことであるから、音註の順序は「站台罔」とするのが正しい。「台」は本例及び No. 637 について *dài* (台の SV) を表わす。筆者及び Gaspardone 氏は曾て *dài chén vàng* と解したが、これでは「金杯をのせる台」の義になってしまう。

637 銀台盞 抜台站：(玄本) 抜

chén đài (SV) bạc

上例と同じ理由で、音註は「站台抜」とするのが正しい。

638 白銀 八稜：(近本、倫本) 八抜

bạc bạch (SV)

「白銀」のことは普通 *bạc trắng* 又は *bạch ngân* (白銀の SV) と称する。本例の音註は「八抜」が正しい。

639 好銀 朗稜：(近本、倫本) 朗抜

bạc lành

音註は「朗抜」が正しい。Gaspardone 氏は *bạc lang* (lương) と解す。

640 低銀 得稜：(倫本) 得抜

bạc xâu

諸本の「得」(tei) は「低」義の *thấp* を表わす機械的な音註のあて方であつて、實際的ではない。按ずるに本例の「低銀」は「品質の劣る銀」のことであるから、玄本の「轉」に従つて、*xâu* (悪い) と解した方が妥当である。

641 銅錢 董典 (tũn tiên)

đồng (SV) tiên (SV)

「典」は tiên (錢の SV) を表わす。

642 硃砂 主施

châu (SV) sa (SV)

643 水銀 匿枝;  
(近本) 匿拔  
(玄本) 七拔

nước bạc

玄本の「七拔」(nie pa) は同じく nước bạc を表わす。普通は thủy ngân (水銀の SV) と称する。

644 鍍金 弄罔 (lũng vãng); (玄本) 都罔

lót vàng

「弄」は lót (衣を被せる、鍍金する) を表わすと思われる。玄本の「都」(tu) は dó (鍍の SV) を表わすのである。

645 廂金 罵罔 (ma vãng); (玄本) 相罔

mà vàng

「罵」は mà (廂、即ち金属の上がわを被せる) を表わす。玄本の「相」(siang) は tương (廂の SV) を表わすのであろう。

646 倒金 对罔; (玄本) 六罔

đó vàng

本例の「倒」は「注ぐ」、「鑄型に入れる」、「鑄る」意味である。諸本の「对」(tuei) は dó を表わすと思われる。đó は「注ぐ、倒す」が原義であるが、地方によつては「鑄る」、「鑄型に入れる」等の義もある。玄本の「六」(AC liuk) は đúc (鑄る) を表わすと思われるが、No. 648 に「鑄一路」とあるのと、本例では採らない。Gaspardone 氏は đôi vàng と解する。意味不明。

647 煎銀 耨拔 (nau pa)

nâu bạc

「耨」は nâu (煎る) を表わす。

648 鑄銅 路董 (lu tung); (玄本) 主董 dúc đóng (SV)

「路」は đuc (鑄る) を表わす。玄本の「主」(tju) は chú (鑄の SV) を表わす。

649 打鉄 燙殺; (玄本) 蕩殺 đánh sát

「打」に対する音註としては有気音の「燙」(tan) よりも、無気音の「蕩」(tan) の方が音韻的に danh (打) に近い。

### N 文 史 門 (Nos. 650-661)

650 勅書 尺思 (tʃi si); (玄本) 尺思 sắc (SV) thu (SV)

「尺」(AC tʃiäk) は sắc (勅の SV) を表わし、「思」は本例及び No. 653-655 など thu (tho.; 書の SV) を表わす。玄本の「尺」(tsin) は chiêu (詔の SV) を表わすのであろう。

651 印信 応頓 (ian tuen); (玄本) 応迪 ân (SV) tín (SV)

「印信」とは官庁で使用する印章のことである。「応」は ân (印の SV)、「頓」は tín (信の SV) を表わす。Gaspardone 氏は in (ân) đóng と解するが、in (ân) は「印する」'đóng は「押す」'と解する。本例とは合わない。

652 花押 滑洽 (xua xa); (玄本) 花哈 hoa (SV) âp (SV)

「花押」とは「書き判」のことである。本例の音註は「滑哈」が正しい。「哈」(AC xâp) は âp (押の SV) を表わす。Gaspardone 氏は hoa hâp (câp) と解する。

653 文書 問思 (van si) vân (SV) thu (SV)



654 読書 度思 (tu si)

đọc (SV) thư (SV)

「度」は *đọc* (読の SV) を表わす。近代越語では書物 (本例と下例の如く) を指す場合は sách (冊の SV) を用いる。

655 看書 皆思 (kai si)

coi thư (SV)

656 写字 別資 (pie tsi)

viết chữ

「資」は本例及び No. 657 にし *chữ* (字、文字) を表わし、No. 658 にし *tự* (字の SV) の音註となる。

657 学字 合資

học (SV) chữ

「合」(AC rập) は *học* (学の SV) を表わす。

658 名字 閱資 (mien tsi)

danh (SV) tự (SV)

本例の「名字」は人の名前のことであるから、「閱」は danh (名の SV)、「資」は *tự* (字の SV) を表現するのどなくしてはならぬ。Gaspardone 氏は *minh chữ* と解する。「閱」は「閱」(ien) の行誤である。

659 卜卦 恠拜;  
(近本) 静本) 恠拜  
(玄本) 剝瓜 (pau kua)

bóc (SV) quái (SV)

筆者は曾して「拜」(pai) が *bóc* (卜の SV) を、「恠」(怪) が *quái* (卦の SV) を表わすと考えたが、それよりも玄本の「剝」(AC pải) が *bóc* を表わし、「瓜」が *quái* を表わすと解した方がもっと妥当である。Gaspardone 氏は *quẻ bói* と解する。*quẻ* は「卦」(quái) のことであり、*bói* は「卜する」の義である。

660 唱曲 昌恰 (t'iaq kia);  
(近本) 昌恰 (河本) 昌恰  
(玄本) 唱恰

xương (SV) khúc (SV)

音註は「昌恰」(昌と唱は同音) が正しかろう。「昌」は *xương* (唱の SV)、「恰」(AC k'áp) は *khúc* (曲の SV) を表わす。

661 上表 連表 (lian pian); (玄本) 登表

\*tlên (lên) biêu (SV)

「表」は biêu (表の SV) を表わす。玄本の「登」(tag) は明らかに \*tl- 母の存在を証するものであろう。

O 声 色 門 (Nos. 662-675)

662 青 蒼

xanh

663 紅 鐸

đỏ

664 緑 藥 (lo); (倫本) 藥

lúc (SV)

音註は「藥」が正しく、本例及び Nos. 673, 674 にし lúc (緑の SV) を表わす。

665 白 八

bach (SV)

666 黄 罔; (倫本) 罔

vàng

667 黒 忍

đen

668 紫 雜 (tsa)

tía

筆者は曾つて「雜」が tía (紫の SV) を表わすと考えたが、むしろ tía (紫の俗語) を表わすと考えた方が妥当である。俗に tím とも称する。

669 天青 雷蒼; (玄本) 北蒼

\*blò-i (tròi) xanh

玄本の「北」(pei) は明らかに \*bl- 複声母の存在を証する。

670 金黃 罔罔; (玄本) 罔斤 (vàng k'ian)

vàng kim (SV)

音註は諸本の如く、「罔」(= vàng) を一語読けるよりも、玄本の「斤」が kim (金の SV) を表わすと見し、vàng

kim とした方がよい。

671 大紅 憂鐸

đỏ cà

「大紅」は胙色のことである。

672 花紅 滑鐸；(玄本) 花鐸

đỏ hoa

音註は「鐸滑」とすべきである。「滑鐸」(hoa đò)では「紅い花」の義になつてしまつた。

673 黒緑 忍楽；(倫本) 忍楽；(玄本) 忍緑

lục (SV) đen

音註は「楽忍」(「楽」と「緑」は近似音、「楽」は「楽」の誤伝)が正しい。

674 鴨緑 惟楽；(倫本) 惟楽；(玄本) 合六

áp (SV) lục (SV)

諸本の「惟」(vi)は原来水禽類の「鴨」(かも)に対する音註で (No. 257) vit の音を表わすのであるが、この音註を本例の如き彩色の名称に適用するのは明らかに機械的な註音の仕方である。本例は玄本の「合」(AC rap)を áp (鴨の SV) の音註と見、又「楽」は上例の如く lục (緑の SV) を表わすものと見し、áp lục と解すべきである。

675 葱白 総八 (tsuŋ pa)；(玄本) 葱八

thông (SV) bạch (SV)

「葱」(葱は同音)は thông (葱の SV) を表わす。

P 数 目 門 (Nos. 676-688)

676 一 没；(玄本) 莫

một

677 二 哈；(倫本) 哈；(玄本) 亥

hai

678 三 巴；(玄本) 把

ba

679	四	奔: (玄本)	半	bôn
680	五	喃: (玄本)	難	năm
681	六	哨: (玄本)	包	sâu
682	七	擺: (玄本)	白	bảy
683	八	滲: (玄本)	且	tám
684	九	軫: (玄本)	進	chín
685	十	邁: (玄本)	每	mười

「一」の部份は No. 158 参照。「二」から「十」にかけての部份は Nos. 149-158 参照。

686 一百 没欄 (mu lan): (玄本) 莫南 *một \*tăm (trăm)*

音註は「没欄」が正しい。「欄」は \*tiam (▷trăm) を表わす。寛政訳語は「モウラン」とあてる。明らかに *một* tiam の対音である。

687 一千 没印 (mu ien) *một nghìn*

「印」(AC iên) は nghìn (数詞千) を表わす。俗に ngàn とも称する。玄本は本例を欠く。

688 一万 没們 (mu mon): (玄本) 莫印 *một muôn*

「們」は muôn (数詞万) を表わす。近代越語では普通 vãn (万の SV) を用いる。muôn を使用するのには nãm (万歳) の如き特殊の場合に限る。Dict. には nuãn と vãn の双方が出ている。玄本の「莫印」は No. 687 の「一千」に対する音註が誤置されたものである。

Q 通用門 (Nos. 689-716)

689 東 冬 (tuŋ) đông (SV)

690 南 喃 nam (SV)

691 西 得 tây (SV)

692 北 白 (AC b'ak) bắc (SV)

693 中 冲 trung (SV)

694 前 勒: (玄本) 剪 \*tư'óc (trư'óc)

玄本の「剪」(tsian)はtiên(前のSV)を表わすらしい。

695 後 稍: (玄本) 喉 sau

玄本の「喉」(xou)はhâu(後のSV)を表わす。

696 左 雜 tả (SV)

近代越語は俗に trãi とも称する。Dict. には \*t'ai, tả 双方を挙げる。

697 右 候: (近本) 候 hữu (SV)

「右」に当る俗語は măt とも称し、特に北圻では phải とも称する。

698 内 餽 (nei) nội (SV)

「餽」はnội(内のSV)を表わす。玄本は本例を欠く。

699 外 歪 ngoại (SV)

700 大 憂

ca

ca は cai に転じて、同じく「大きい」義を指す。例えば *đường cái, song cái (côi)* の如く。

701 小 別

bé

別に *nhỏ* とも称する。

702 軽 賽：(玄本) 易 (i)

nhẹ

諸本の「賽」(*sai*) はどうしても *sè* (軽快な) としか解せられない。Gaspardone 氏は斯く解するが、本例の「軽」は下例の「重」に対する語であるので、重量的に「軽」い義でなくてはならぬ。玄本の「易」(*AC ie*) は *nhẹ* (軽い) を表わすと思われる。

703 重 讓 (EM *ziang*); (玄本) 中 (MM *niang*)

nhặng

「讓」は *nhặng* (重い) を表わす。玄本の「中」は *trọng* (重の SV) の音註である。

704 稀 些 (sie)

sua

本例の「稀」は下例の「密」に対する語で、「疎」(まばらな) 義である。sua は俗に *thưa* とも称する。

705 密 (玄本) 蜜 麦：(玄本) 毛

mật (SV)

本例の語義は上例 (No. 704) の「稀」に対するのであるから「密」が正しい。玄本の「毛」も同じく *mật* (密の SV) を表わすのであろう。

706 斜 打

tà (SV)

707 灣 翁

uôn (SV)

708 濶 弄：(玄本) 郭

rộng

官話の「濶」は「広い」と云う義である。玄本の「郭」(kno)は *khóat* (濶の SV) を表わす。

709 挾：(近本、倫本) 狭 鶴 (xo) *hép*

本例の語義は「狭」が正しく、「鶴」(AC *ráp*) は *hép* (狭い) を表わす。

710 尖：(玄本) 光 朔：(玄本) 言 *nhon*

語義は「尖」が正しく、諸本の「朔」(AC *sák*) は *sác* を表わすが、これは「鋭い」、「切味のよい」義である。本例は玄本の「言」(AC *ngien*) を採用して *nhon* (尖った) を表わすとみるべきである。

711 龕 多 (tuo) *thô* (SV)

712 細 牙：(玄本) 梭 *nhó*

玄本の「梭」(so) は何音を表わすか不明。

713 謾 (慢) 浪：(玄本) 殺 *lùng*

前後の関係を見ると、本例の語義は下例 (No. 714) の「緊」(急ぐ) に対する語であるから、「謾」よりも「慢」でなくてはならない。「慢」の義は「緩慢な」、「動作の」のろい」ことであるから、「浪」(lan) は *lùng* (のろい、ゆったりした) を表わすと思われる。近代越語では *lùng* は単独には用いられないが、普通 *thùng* と合して、*lùng thùng* で「遅緩、のろい」義を表わしている。玄本の「殺」の対音は不明。Gaspardone 氏は *tiang* (tràng) と解する。

714 緊 毛：(玄本) 第 *mau*

本例の「緊」は「急ぐ」、「急な」の義であるから、諸本の「毛」は *mau* (急ぐ、速い) を表わすこと明らかである。玄本の「第」は「茅」(mau) の誤伝であろう。

715 田 鸞 *\*tìon* (trôn)

「匾」は「薄い」、「平つぺたい」義であるから、諸本の「夾」(AC kap)は kép (押しつぶされた、収縮した、平つたい)を表わすと思われる。近代越語では普通 bép と称する。玄本の「辺」は「匾」の SV たる bién を表わす。

Gaspardone 氏は本例の「匾」を「四角い」義にとり、「夾」を biác と解した。